

大分県立美術館を中核とした 大分県文化観光推進拠点計画

目 次

1	実施体制	P 3
2	事務の実施体制	P 4
3	基本的な方針	
3-1	現状分析	
3-1-1	主要な文化資源	P 5-9
3-1-2	来訪客の動向	P 10-15
3-1-3	他の文化資源保存活用施設との比較	P 16-19
3-2	課題	P 20-21
3-3	文化観光拠点施設としての機能強化に向けて取組を強化すべき事項 及び基本的な方向性	P 21-23
3-4	地域における文化観光の推進への貢献	P 24
3-5	文化の振興を起点とした、観光の振興、地域の活性化の好循環の創出	P 25
4	目標	P 26-32
5	目標の達成状況の評価	P 33
6	文化資源保存活用施設	
6-1	主要な文化資源についての解説・紹介の状況	
6-1-1	現状の取組	P 34
6-1-2	本計画における取組	P 35-36
6-2	施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者との連携	
6-2-1	現状の取組	P 36
6-2-2	本計画における取組	P 37
6-3	施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者との連携	
6-3-1	現状の取組 国内外における地域の宣伝に関する事業	P 37
6-3-2	本計画における取組	P 38
7.	文化観光拠点施設機能強化事業	
7-1.	事業の内容	
7-1-1	文化資源の魅力の増進に関する事業	P 39-46
7-1-2	情報通信技術を活用した展示、外国語による情報の提供その他の国 内外からの観光旅客が文化についての理解を深めることに資する措 置に関する事業	P 47-49
7-1-3	国内外からの観光旅客の移動の利便の増進その他の文化資源保存活 用施設の利用に係る文化観光に関する利便の増進に関する事業	P 50-51
7-1-4	文化資源に関する工芸品、食品その他の物品の販売又は提供に関す る事業	P 52-53
7-1-5	国内外における文化資源保存活用施設の宣伝に関する事業	P 53-55
7-1-6	7-1-1～7-1-5 の事業に必要な施設又は設備の整備に関する事業	P 56
7-2	特別に措置に関する事項	P 56
7-3	必要な資金の額及び調達方	P 57-62
8.	計画期間	P 63

大分県立美術館を中核とした大分県文化観光推進拠点計画

1. 実施体制

文化資源 保存活用 施設	名称	大分県立美術館	所在地	大分市寿町 2-1
申請者 文化資源保存活 用施設の設置者	名称	大分県	所在地	大分県大分市大手町 3－1－1
	代表者	大分県知事 広瀬勝貞		
	地方公 共団体 内部の 役割	【主担当部署】 企画振興部芸術文化スポーツ振興課（本拠点計画全体に関する事業） 【連携する部署】 企画振興部国際政策課（多言語化対応） 交通政策課（公共交通） 商工観光労働部観光局（観光客データなど事業検証、分析、広報連携・協力） 先端技術挑戦課（宇宙港および ISTS に関する事業）		
共同申請者 ① 文化観光推進 事業者	名称	（公財）大分県芸術文 化スポーツ振興財団	所在地	大分県大分市高砂町 2 番 3 3 号
	代表者	理事長 御手洗 康		
	役割	施行規則第 1 条第 2 項第 2 号の文化観光推進事業者（大分県立美術館指定管理 者）		
共同申請者 ② 文化観光推進 事業者	名称	（公社）ツーリズム おおいた	所在地	大分県大分市高砂町 2 番 5 0 号 OASIS ひろば 21（3F）
	代表者	会長 幸重 綱二		
	役割	施行規則第 1 条第 2 項第 1 号の文化観光推進事業者者（地域DMO）		
共同申請者 ③ 文化観光推進 事業者	名称	NPO 法人 BEPPU PROJECT	所在地	大分県別府市野口元町 2 番 3 5 号 菅建材ビル 2 階
	代表者	代表理事 山出淳也		
	役割	施行規則第 1 条第 2 項第 2 号の文化観光推進事業者		
共同申請者 ④ 文化観光推進 事業者	名称	大分県旅館ホテル 生活衛生同業組合	所在地	大分県別府市北浜 2 丁目 1 0 番 1 9 号 グランメールビル 4 階
	代表者	理事長 西田 陽一		
	役割	施行規則第 1 条第 2 項第 2 号の文化観光推進事業者		

2. 事務の実施体制

申請者 大分県

～大分県立美術館設置者、大分県立美術館施設および収蔵品所有者

共同申請者①（公財）大分県芸術文化スポーツ振興財団

～大分県立美術館の指定管理者

共同申請者②（公社）ツーリズムおおいた（地域連携DMO）

～大分県の観光の振興及び地域活性化を図ることを目的とした公益法人

共同申請者③ NPO法人 BEPPU PROJECT

～別府市を活動拠点とするアートNPO。2005年発足、2006年法人化

共同申請者④ 大分県旅館ホテル生活衛生同業組合

～大分県内の旅館・ホテル営業について衛生施設の改善向上、その衛生水準の維持向上を図り、あわせて利用者又は消費者の利益の擁護に資する共同組合

○大分県立美術館の設置者である大分県（芸術文化スポーツ振興課）と美術館指定管理者である（公財）大分県芸術文化スポーツ振興財団（大分県立美術館）が事務局となり、計画の進捗管理や改善策を話し合う運営検討会を毎月行う。

○事務局と（公社）ツーリズムおおいた、NPO法人 BEPPU PROJECT、大分県旅館ホテル生活衛生同業組合との運営検討会を四半期ごとに行い、計画の進捗共有、企画立案、事業評価、個別の事業の打合せ等を行う。

◎主担当事業者 ○協働・連携事業者

事業内容	申請者 大分県	共同申請者			
		①	②	③	④
計画、スケジュール、予算管理等全体オペレーション、事業検証	◎	○	○		
コレクション展、企画展の企画・広報に関する業務	○	◎	○		
コレクションのデジタル化、データベースに関する業務	◎	○			
館内施設整備および多言語化に関する業務	◎	○			
商品開発等に関する業務	○	○		◎	
地域文化資源にかかる体験ツアー造成および文化観光人材育成	○	○	◎	◎	○
文化観光に国内外広報活動	◎	○	○	○	○

《 大分県庁内で連携する部署と役割 》

- 交通政策課 : ホーバークラフト運行に関する事業連携、県内交通機関との連携・協力
- 国際政策課 : 多言語化、インバウンド対応への連携・協力
- 観光局 : 大分県観光統計調査のデータ共有、県内観光マーケティングに関する協力、「日本一のおんせんおおいたツーリズム戦略」に基づいたPR連携・協力
- 先端技術挑戦課 : 「宇宙港（大分空港）」「I S T S（宇宙技術および科学の国際シンポジウム）」に関する事業連携
- 商業・サービス業振興課 : 「竹（バンブー）」マルシェ開催、地域文化資源の販売に関する事業
- 大分県立竹工芸訓練センター : 「竹工芸科」修了生による作品展やイベント開催に関する連携

3. 基本的な方針

3-1. 現状分析

3-1-1. 主要な文化資源

【1. 概説】

1. 豊かな風土が育んだ大分のアートシーン

- 大分県は古来、宇佐・国東半島を中心とした六郷満山文化等により、各地に国宝を含む多くの仏教美術が遺されているほか、16世紀大友宗麟の時代には南蛮文化が花開き、江戸時代の小藩分立期には、豊後南画や小鹿田焼をなど天領や各城下町の歴史・自然と結びついた各地域独自の文化風土が育まれてきた。明治以降には、真竹（マダケ）生産量日本一を誇る土地柄の元、別府温泉を訪れる湯治客の実用品に始まった竹細工産業が、大正から昭和にかけて芸術品の域に昇華され、多くの竹工芸家を輩出し、現在に至っている。
- 近年では、別府や国東半島で、国際的に活躍する現代アーティストが、地域独自の魅力にインスパイアされたアート作品を制作する野外現代芸術祭が活発化している。そうした動向の中で、地域に多くのアーティストやクリエイターが移住し、制作活動とともにアートプロジェクト等を開催し、この地域に新風を吹き込んでいる。
- 2018年の国民文化祭ではアニッシュ・カプーア@別府をはじめ、県内各地で地域文化と現代アートがコラボしたアートイベントを開催。全国から多くの観光客が各地域を訪れたことから「カルチャーツーリズム」という新たな旅行スタイルとその経済効果が広く認識された。

2. 地域文化の粋を集めた大分県立美術館

- 大分県立美術館（OPAM）は、このような新たな潮流の中、東九州の交通の要衝・大分市に2015年に開館した。5000点を越えるコレクションの主要部分は地域と深くつながり、その特徴を色濃く映し出している「豊後南画」「日本画」「竹工芸」である。それらは本県が誇る「地域文化の粋」であり、特に竹工芸のコレクションは全国随一を誇っている。
- 坂茂氏が設計した建築の外壁は竹工芸をモチーフとしており、大通りに面した開閉式のフロントウォールは全面ガラス張りで、館内は街に向かって常に開かれている。隣接する音楽ホール「iichiko 総合文化センター」とともに、大分県の芸術文化の中核となっている。

3. 現状の課題と本計画による取組

- 現状の課題は、県内各地で活発化している芸術文化活動がそれぞれにクオリティが高く成果も上げているものの、散在し連携性に乏しいために高いポテンシャルを活かしきれず、相乗効果を発揮できていないことである。本計画では、以下の主要方向でこの課題解決に取り組む。

①地域との連携を強化した展覧会の開催や、解説の充実、インバウンド対応の強化等によりOPAMの魅力アップを図るほか、BEPPU PROJECT等の県内のアート団体等と連携して、地域文化資源の磨き上げを促進する。

②OPAMが県内各地の文化施設、観光施設等と双方向の連携を深め、「芸術文化の拠点」としてカルチャーツーリズムのゲートウェイ／ハブとしての機能を果たし、地域とOPAMとの間の「ヒト、コト、モノ」の循環を創出する。特に、竹工芸、建築、現代アートをキーコンテンツとして、展覧会、イベントの開催、旅行商品造成等により、観光の中心である別府、湯布院・国東半島との周遊・連携を強化する。

【2「地域文化の粋」を集めた大分県立美術館（OPAM）】



© Hiroyuki Hirai

1. 大分県立美術館概要（平成 27 年 4 月 27 日開館）

○施設：地上 4 階地下 1 階 床面積延べ約 1 万 6, 8 0 0 m²

隣接する iichiko 総合文化センターとともに、公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団が指定管理者制度により事業運営を行う

○設計者：坂茂（2014 年プリツカー賞受賞、2015 年 J I A 日本建築大賞受賞）

○運営コンセプト

- ・「五感で楽しむことができる」美術館
- ・「出会いによる新たな発見と刺激のある」美術館
- ・「自分の家のリビングと思える」美術館
- ・「県民とともに成長する」美術館

2 OPAMコレクション ～ 主要な地域文化資源

（1）国内随一の「竹工芸」コレクション

竹工芸で初の人間国宝となった生野祥雲齋（1904-1974）の作品を中心として、国内最大の所蔵点数を誇る。県内作家だけでなく、全国の竹工芸家の作品も多数収蔵している。

＊竹工芸所蔵点数：305点

＊生野祥雲齋（竹芸初の人間国宝）所蔵作品74点（寄託21）書等2点（寄託1）

①本県の風土が育んだ歴史的地場産業

本県は全国1位の生産量を誇る真竹（マダケ）の産地。室町時代に始まった竹細工は、江戸時代に湯治客の日用品として広まり、土産物として地場産業に発展した。明治時代に職人養成校が設立され、地場産業の礎を築いた。昭和54年に国指定伝統的工芸品に指定され、現在も国内唯一の訓練施設「大分県立竹工芸訓練センター」が地域の伝統文化産業を受け継いでいる。

②自然・歴史・産業 ～ 地域のすべてを体感できるコンテンツ「竹」

竹材の生産から製品・作品の制作まですべてが「made in OITA」。OPAMでの世界レベルの作品鑑賞から、地域の工房での作家との交流や制作体験、作品・商品購入に至るまで、竹のすべてを体験できることが本県の強みである。さらに、竹材を用いた雑貨や家具、公共空間の演出、旅館・ホテルでのサテライト展示やワークショップなど、地域一帯での整備が可能な地域文化資源である。

③欧米系インバウンドに高い訴求力を持つ

竹は古来日本人の生活に根ざし、さらに茶道、華道と深く関わりながら発達してきたことから、日本を象徴するコンテンツとして注目され、欧米系インバウンドが高い関心を持つ。



■ 生野祥雲斎 1904-1974

別府市生まれ。本名秋平。佐藤竹邑斎に師事。1940年奉祝展に初入選。戦後は日展にて1956年北斗賞、翌年特選・北斗賞を受賞。1967年には竹芸初の重要無形文化財の保持者（人間国宝）に認定され、紫綬褒章受章。

（左）『炎』－ 昭和32年 （右）『ホールのための置物 梟将』－ 昭和47年

（2）文人画、日本画、小鹿田焼

九州地域の公立美術館が洋画家（油彩画）の作品を中心に所蔵しているのに対し、唯一、近世絵画（文人画）から日本画、そして竹工芸、民芸がコレクションの中核を成していることがOPAMコレクションの特徴である。

これらは、海外からの鑑賞者に対して、日本人特有の自然美と美意識、深い精神性を伝えられるコレクションである。

○文人画 ～ 田能村竹田他 豊後南画コレクション

- ・田能村竹田作品 39点（うち寄託 12 重要文化財 2点）
- 書・典籍等資料 147点（うち寄託 12）

○日本画 ～ 日本画壇を代表する日本画家、国内最大の福田平八郎コレクション

- ・福田平八郎作品 109点（うち寄託 17）
- 福田平八郎素描等 443件

○小鹿田焼 ～ 重要無形文化財に指定された陶芸技法

- ・作品 59点（うち寄託 7）
- ・地区全体が「小鹿田焼の里」の名称で重要文化的景観として選定（H20年）

■大分県立美術館収蔵品個数

種 別	個数
近代絵画	260
日本画	407
浮世絵	169
油彩・水彩	573
素描・下絵	1,808
版画・写真	811
彫刻	204
工芸	537
書	83
典籍・古文書・写本等	222
歴史資料・研究資料等	75
合 計	5,149

※寄託品（別途 523件）



(左) 田能村竹田『稻川舟遊図』(部分) 重要文化財 (中) 福田平八郎『新雪』 - 昭和 23 年
(右) 小鹿田焼『刷毛目打掛け文蓋付壺』 - 20 世紀後半

3. OPAMの建築空間

OPAMの特徴的な建築と空間は、それ自体を地域文化資源と捉えることができ、建築をテーマとしたカルチャーツーリズムの一翼を担うほか、空間を最大限に活用したユニークベニユーの開催等により、さらに存在感を高めることができる。

(1) 建築空間の特徴

○竹工芸をモチーフにした外観・内装と、街と一体化する仕掛け

建物正面の外装や3階の天井は竹工芸を意識した意匠。1階正面の外壁に設けられた水平折戸を開放することで、1階のアトリウムが屋外と一体化し様々な活用可能となる。

○館内外に、6作家の現代アート作品を設置

マルセル・ワンダース《ユーラシアン・ガーデン・スピリット》ほか



(左) 水平折戸 (中) 3階の天井 (右) マルセル・ワンダース『ユーラシアン・ガーデン・スピリット』
© Hiroyuki Hirai

【3. 大分県内その他の地域文化資源】

1. 国東半島の現代アート作品群

○国東半島芸術祭 (2012年～2014年)

大分県は国東地域と連携し、2012年から国東半島独自の地域風土と現代アーティストの感性が会う「国東半島芸術祭」を展開した(文化庁、民間企業による各種助成事業)。すべての作品は作家が現地滞在し、地域の歴史、自然風土から発想を得て、この場所でしか表現できない作品として制作されたもので、国東半島の新しい地域文化資源である。

○芸術祭開催後の動き

「国東半島芸術祭」以降も、国東半島への現代アート作品の設置が進んでいる。

また、大分空港や別府駅をゲートウェイとし、国東半島の歴史遺産と現代アートを巡りな

がら、アーティストによるトークイベントやワークショップを楽しむ現代アートツアーが造成され、令和元年度より本格的に実施されている。

《作品設置作家》

オノ・ヨーコ、チェ・ジョンファ、アントニー・ゴームリー、勅使川原三郎、チームラボ、川俣正、宮島達男、木村崇人、淀川テクニック、島袋道浩



(2) 別府市での現代アートプロジェクト

別府市では、NPO法人BEPPU PROJECTが主催する現代アートイベントが好評で、全国から多くのファンが訪れる。

《主なイベント》

「i n B e p p u」 : 別府市を舞台とした、国際的に活躍するアーティストによる地域性を活かした個展形式の芸術祭

「ベップ・アートマンス」: 文化活動を行う別府市民による総合文化祭

○「i n B e p p u」は、住民、地域産業、温泉や観光施設がイベントに密接に関わることで、来訪者が地域を周遊する仕組みが構築されている。20～30代の女性が多く、首都圏を含む遠方から訪れるファンも目立つ。

○NPO法人BEPPU PROJECTは、別府・国東半島エリアを中心に、観光、福祉等各分野の団体等とも連携し、現代アートによる地域の魅力の掘り起こしを行っている。別府市の観光客は比較的年齢層が高いが、一連の活動を通して、アートに関心の高い若い女性の個人客を取り込むことに成功するなど、成果を上げてきた。

2020年には、国際的な現代アート作家の作品を常設したホテル「ガレリア御堂原」(別府市)をプロデュースするなど、現代アートによる地域活性化をさらに進めている。

3-1-2. 来訪客の動向

【1. 大分県の観光にかかる来訪者動向】

1 大分県全体の来訪者動向

(1) 大分県全体（観光入込客数）

* 県外(県全体)には訪日外国人を含む

		H 2 9 (2017)	H 3 0 (2018)	R 1 (2019)
県 内 (県全体)	日帰り	7, 101, 000	7, 212, 000	7, 092, 000
	宿 泊	998, 000	1, 109, 000	1, 188, 000
県 外 (県全体)	日帰り	5, 686, 000	6, 942, 000	6, 393, 000
	宿 泊	4, 934, 000	5, 218, 000	4, 912, 000
別府市	日帰り	6, 262, 548	6, 520, 441	5, 890, 488
	宿 泊	2, 544, 330	2, 522, 654	2, 445, 285
由布市	日帰り	3, 053, 524	3, 438, 712	3, 410, 327
	宿 泊	806, 673	982, 960	1, 004, 565

(出典) 県全体: 共通基準による観光入込客統計(観光庁)、別府市: 別府市観光動態調査、由布市: 由布市観光動態調査

(2) 来県者属性 (大分県観光動態調査レポート資料 県内市町村分析 2019年3月ツーリズムおおいた実施)

(県全域) 北九州福岡市圏 45.5% 関東圏 6.9% 近畿圏 6.7% 四国 3.2% その他 38.2%

(別府市) 北九州福岡市圏 38.2% 関東圏 9.2% 近畿圏 8.2% 四国 4.8% その他 39.7%

(由布市) 北九州福岡市圏 38.9% 関東圏 10.3% 近畿圏 8.4% 四国 3.1% その他 39.2%

(3) 県外(宿泊者)来県状況および県内立ち寄り市町村の状況

①別府市 24.4% ②由布市 20.7% ③宇佐市 12.6% ④大分市 11.9% ⑤豊後高田市 10.0%

※すべての年齢層で別府市、由布市の割合が高い。

※福岡県からの訪問者は、由布市: 24.5%、別府市: 24.1%、宇佐市: 15.4%

(4) 市町村間周遊および属性分析

○別府市内宿泊者の2エリア以上周遊率 68.2% (大分市 32.0% 由布市 20.0%)

○由布市内宿泊者の2エリア以上周遊率 70.7% (別府市 40.0% 大分市 21.2%)

※関東圏発地者は国東市を含む周遊が多い。

※近畿圏発地者は別府市⇄由布市の周遊割合が多い。

※大分市来訪者は男性傾向が高く、40～49歳の割合が高い。

※別府市来訪者は関東圏の15～29歳および近畿圏の60歳以上の割合が高い。

※由布市来訪者は女性傾向が高い。男女とも15～29歳と60歳以上の割合が高い。

(5) 宿泊者に関する分析

・別府市宿泊率 : 85.0% (1泊旅程者 43.4% 2泊以上 41.3%)

・由布市宿泊率 : 80.3% (1泊旅程者 38.5% 2泊以上 42.8%)

・県全体の宿泊率: 63.8% (1泊旅程者 33.8% 2泊以上 33.0%)

(6) 観光客の来訪分析

・県外客の来訪回数 : 県外客の本県への来訪回数は平均約 9.71 回

5 回以上 38.4%, 初めて 27.3%, 2 回 15.9%, 3 回 13.0%

- ・年齢別来訪回数 : 30 歳代以上年代では 5 回以上の割合が最も高く、60 歳代以上では 44.5%。20 歳以下では「初めて」の割合が最も高い。
- ・居住地域別来訪回数：平均来訪回数
 - ・福岡県:約 13.95 回、九州・沖縄:約 10.44 回、中国:約 5.64 回

(7) 観光客の交通手段分析

- ①自家用車、社用・公用車： 70.8%
 - ※年々増加傾向。居住地別では、九州(85%)、中国地方(77.9%)
- ②飛行機 11.1% ③レンタカー6.5%
 - ※貸切バス・観光バス：年々減少傾向 ※フェリー：近畿・四国最も高い
 - ※飛行機：北海道・東北や関東、中部が高い

(8) 観光客来県目的 (出典) 令和元年度大分県観光動態調査報告書

- ①温泉に魅力を感じる 33.7% ②名所・旧跡に魅力を感じる 23.6%
- ③自然が豊か 17.9% ④食べ物がおいしい 13.1%
 - ※20 歳未満を除く全ての年代別、居住地別でも「温泉に魅力を感じる」が最も多い。
 - ※県内すべての地域で「温泉に魅力を感じる」が最も高くなっており、特に中部（大分市・別府市・由布市）では 51.7%と半数を超える割合となっている。

2【推計】芸術文化に関心のある観光客市場規模

- ・大分県への県外からの観光入込客数をベースに、「芸術文化に関心のある観光客」について、市場規模を推計

試算結果

県外からの観光入込客数のうち芸術文化に関心のある層

約 609 千人

	福岡	九州・沖縄	北海道・東北	関東	中部	近畿	中国	四国
構成比	41.6%	27.5%	0.9%	7.7%	2.7%	6.0%	9.4%	2.8%
観光入込客数(千人)	3,724	2,462	81	689	242	537	841	251
芸術等関心	11.7%	3.2%	3.7%	6.2%	2.9%	4.1%	1.5%	2.5%
市場規模(千人)	436	79	3	43	7	22	13	6

(出典)・2019 年共通基準による観光入込客数(観光庁) 県外観光入込客数 約 8,951 千人

・旅行年報 2020 (JTBF) 令和元年度大分県観光実態調査報告書(大分県)

3【推計】別府、湯布院観光客の大分県立美術館来訪状況※2018・2019 大分県観光実態調査に基づく事務局調べ

別府温泉：400 人に 1 人(0.26%)が来館、由布院温泉：800 人に 1 人(0.13%)が来館

【参考：別府市・由布市観光客の大分県立美術館来場割合推計】

	別府市 (千人)	割合	来訪者数 (人)	由布市 (千人)	割合	来訪者数 (人)
推計結果	8,097	0.26%	20,988	1,190	0.13%	1,488
試算(+0.3%)		0.58%	45,277		0.43%	5,058
試算(+0.5%)		0.78%	61,471		0.63%	7,438

4 【分析結果】大分県の観光にかかる来訪者動向にみられる傾向分析と対策

- ①別府市・由布市（湯布院）が国内外から大分県への観光客の最大窓口であり、最大の目的は温泉である。
- ②別府市、由布市ともに40%以上の連泊者があり、別府市 ⇄ 由布市の周遊が県内で最多。
- ③別府市、由布市ともに2エリア以上の周遊割合が7割あり、大分市との間を周遊する宿泊者層が2～3割あることから、この「連泊＋周遊する層」をターゲットとしたアプローチが必要。
- ④県外旅行者の再訪率は高く、再訪機運を高めるコンテンツや働きかけが有効である。
- ⑤日本人旅行者は車（レンタカー含む）による周遊旅行者が圧倒的に多い。車による個人旅行は自由に周遊することができるため、それにあわせたコンテンツ造成が有効である。
- ⑥「名所・旧跡に魅力を感じる」層は「地域の歴史や文化に興味・関心を持っている」とも捉えられる。「温泉」観光に＋αのコンテンツとして「地域文化」を付加できる層が存在する。
- ⑦既存の連泊・周遊する県外観光客のうち、地域の歴史や文化に関心のある観光客に対してOPAMが訪問先となり得るコンテンツや取組を行うことが必要。

【2. 大分県におけるインバウンドの状況について】

1 インバウンド客数の推移

（1）大分県訪日外国人客数内訳 （出典）宿泊旅行統計調査（2019 観光庁）

①韓国 44% ②台湾 16% ③香港 11% ④中国 11% ⑤欧州 4%

上位4カ国・東アジア地域で全体の82%

（2）訪日外国人消費動向調査（2019 大分県）

- ・大分県の訪問率 : 3.3% （全国第14位）
- ・大分県への訪日外国人観光客の訪問者数 : 1,053,479人（全国第14位）
- ・大分県の訪日外国人観光客宿泊数 : 1,181,140人（全国第16位）
- ・大分県の訪日外国人の平均宿泊数 : 1.9泊 （全国第43位）
- ・大分県のインバウンド消費金額 : 22,930円 （全国第42位）
- ・大分県への「Japan Free Wi-Fi」登録件数 : 1,711施設 （全国第33位）

※外国人訪問者数は全国的に高いが、宿泊数が非常に低いため、連動して消費金額が低い。

（3）大分県内でのインバウンド客の傾向

訪日リピーターの多い台湾、香港、そしてタイ、インドネシアの間では、別府温泉が有名。別府温泉、由布院温泉をはじめ、地獄めぐりが人気の観光スポットで、いずれの国も、公衆浴場の文化がないので、温泉に入ること自体が、体験、アクティビティという認識となる。

（4）《参考》国別の日本に対する興味関心

（韓国）

「日本風の旅館に泊まる」が41.8%、「SNSや個人のブログなどインターネット上で話題になった場所に行く」が8.5%で他の国籍・地域に比べて多い

（台湾）

「自然・景勝地を観光する」 46.1%、「お土産（食べ物・お酒等飲食料品）を買う」 17.7%、「四季の体感（花見・紅葉・雪等）」 7.8%、「自然体験ツアー・農漁村体験」 5.7%

（フランス・アメリカ）

「ローカルのまち歩き」が他の国籍・地域に比べて多い。

（オーストラリア）

「美術館・博物館に行く」、「日本の歴史・伝統文化（武道、茶道、華道、書道、座禅等）を体験する」が他の国籍・地域に比べて多い。

（その他アジア圏）

「日本食を食べること」 84.4%、「繁華街の街歩き」 39.1%、「日本の酒を飲むこと（日本酒・焼酎等）」 34.4%、「ローカルのまち歩き」 18.8%、「美術館・博物館に行く」「日本の歴史・伝統文化（武道、茶道、華道、書道、座禅等）を体験する」がそれぞれ 15.6%、「自然のアクティビティを体験する（登山、オルレ（フットパス））」 9.4%

温泉目的で日本を訪れた外国人旅行者「日本旅行を選んだ理由は温泉の他に何ですか？」									
回答者→	全 体	韓 国	中 国	台 湾	香 港	タ イ	シンガポール	マレーシア	インドネシア
サンプル数	833	118	108	141	177	96	75	34	24
日本食に関心があったから	72%	44%	63%	75%	86%	81%	79%	71%	83%
日本の景観に関心があったから	69%	31%	74%	71%	71%	89%	72%	82%	100%
日本の文化・歴史に関心があったから	53%	26%	61%	56%	42%	72%	63%	68%	79%
温泉が美しいから	43%	22%	36%	53%	42%	65%	40%	50%	63%
日本でのショッピングに関心があったから	41%	24%	41%	43%	49%	49%	28%	47%	58%

（注1）日本旅行を選んだ理由に「温泉に関心があったから」と答えた回答者を対象に、その他に重複してどのような理由を挙げているかを集計
（注2）全国版調査では計 19 項目の選択肢を設けているが、そのうち全体で温泉を除く上位 5 位までを抜粋

2 【分析結果】大分県の観光にかかる来訪者動向にみられる傾向分析と対策

- ①温泉を主目的として来日した外国人旅行者の過半数が、その他の目的として「日本の文化・歴史に関心があったから」を挙げているため、日本画や竹工芸のコレクションが充実したOPAMに関心を持つ可能性は高い。
- ②アジア系観光客は、現地ならではの体験や自然、食への嗜好が高い。この傾向に着目し、「美術館での作品鑑賞」や「竹工芸制作体験」などを団体ツアーの新しいコンテンツとして提示すれば、効果が高いと考えられる。
- ③海外観光客の約8割が東アジア地域からであるが、大分県は2019年ラグビーワールドカップ開催を前後して欧米大洋州からの観光客誘致を強化している。今後、長期滞在と「着地型」観光を好む傾向にある欧米大洋州からの観光客は、OPAMを訪問する可能性が高いと考えられる。

【3. 大分県立美術館来館者数】

1. 現状分析

- ①年間を通じて、自主企画展、マスコミとの共催展、コレクション展を開催するとともに、全県規模の大分県美術展、高山辰雄ジュニア美術展や各種大学の卒業展など、各種貸会場やイベント会場としても展示室およびアトリウムを使用し、R2年度には開館以来の来館者数が300万人に達した。
- ②開館以来、企画展鑑賞を主目的とする来館者の割合は高く、2018年の「国民文化祭」、2019年の「ラグビーワールドカップ」開催時には、これら大規模催事と連携した企画展を開催することにより、20万人規模の来場者を得てきた。

- ③大分県の地域文化資源であるコレクション展を主目的とする来場者は非常に少ない。
- ④展覧会やイベント以外を主目的とする来館者（建築空間、無料スペース利用が主）の割合が高い。
- ⑤来場者の年齢・性別は、企画展の内容により年齢のばらつきはあるものの、年間では変動が少なく、全体的に女性の来場者は60～70%近い。
- ⑥来館者のほぼ半数は大分市在住である。県外からの来館者は3割程度（R2年は大幅減）

2. 各年総入館者数（人）

（館全体・建築）

*R2年度はR3年3月14日現在

年度	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R1(2019)	R2(2020)
	642,508	434,518	648,223	572,001	532,307	237,227

（企画展、各種イベント等）

年度	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R1(2019)	R2(2020)
	245,373	32,420	225,998	208,089	144,482	98,377

（コレクション展）

年度	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R1(2019)	R2(2020)
	85,129	50,027	30,647	16,520	29,677	23,557

3. 来場者アンケートに見る鑑賞者の動向（回答数：R元年1,995人 R2年1,824人）

①主な来場目的

（R1）企画展：63% コレクション展：23% 建物見学・無料エリア・その他利用：14%

（R2）企画展：68% コレクション展：25% 建物見学・無料エリア・その他利用：7%

②来館者年代

（R1）9歳以下6% /10代16% /20代12% /30代13% /40代13% /50代15% /60代14%
/70代以上11%

（R2）9歳以下4% /10代16% /20代16% /30代13% /40代14% /50代15% /60代14%
/70代以上8%

③来館者性別

（R1）男性：33% 女性：67% （R2）男性：42% 女性：58%

④来館者居住

（R1）大分市50% 別府市9% その他県内14% 県外27%（福岡県9%・他県外18%）

（R2）大分市54% 別府市11% その他県内20% 県外17%（福岡県8%・他県外9%）

⑤友の会会員の年齢（男性（有料）：737名 女性（有料）1,623名 計2,360名）

（男性）～10代1人/20代6人 /30代31人 /40代78人/50代189人/60代210人
/70代以上222人

（女性）～10代3人/20代34人/30代74人/40代185人 /50代417人/60代481人
/70代以上429人

4. 大分県立美術館の海外旅行者利用状況

開館からR元年まで、海外来館者数のカウントは行っていないが、アジア系観光客（台湾）を主として入館者の0.4～0.5%程度と推測される。

（参考）H28年～R1年度 海外旅行者・団体利用者数 8,156人（割合）

台 湾：3,359人（41%） 韓 国：149人（2%） 中 国：243人（3%） 3国で46%
アメリカ： 64人（1%） イギリス：51人（1%）
そ の 他：4,290人（53%）

5. 【分析結果】県内の観光客やOPAMの来館者に見られる傾向分析と対策

①国内観光客

- ・年間を通じると幅広い年代層が来館しているが、友の会会員（リピーター、OPAMファン）は50代以上の女性が多く、若い世代はコレクション展の鑑賞が少ない。
- ・別府・国東にはアートプロジェクトに関心の高い若い層の個人客、湯布院には新しい物に対して好奇心の高い若い女性層や、温泉リピーターで本物志向のアクティブシニア層が多い。

（対策）

- ・OPAMの来館者を増加させるためには、地域の芸術祭やイベント、観光動向と連携、連動した事業を展開し、情報発信や体験プログラムを造成することで、ファンを増やす必要がある。

②訪日観光客

- ・海外団体旅行者は展覧会鑑賞が目的ではなく、館内無料スペース（ミュージアムショップ含む）での自由行動、館内見学が多い傾向にある。

（対策）

- ・団体旅行会社への積極的な情報提供や働きかけを行い、展覧会を鑑賞する、食事をする、買い物をするようなツアー造成や、団体向けガイドを確保するなどの取組が必要である。
- ・特に日本文化に関心があり体験を求める欧米太平洋州の観光客、現代アートや工芸品などに関心を寄せる海外富裕層に対し、コレクションを活用した体験型プログラムの造成が必要。

【参考】近年の県内大型イベントと来館者の動向

①2018年 「国民文化祭おおいた」（9月～11月）

○県内全18市町村にて“文化芸術×地域”の文化イベントを開催。「カルチャーツーリズムツアー」を27コース造成し、約700名参加 ツーリズム参加者満足度90%

○国民文化祭期間中 大分県立美術館入館者数：138,160人/入場者数：95,836人

②2019年 「ラグビーワールドカップ2019」大分開催（9～11月）開催

○全5試合観戦客数 172,951人

うち外国人：32%（当初想定25%） 県外客：39% 県内客：29%

○期間中の大分県立美術館入館者数：136,731人/入場者数：41,204人

*上記のような全県的な大型イベント時には、OPAMにも多くの来場者があったが、いずれも当該イベントありきだったため、OPAMを起点とした周遊性が弱かったことが課題。

*本計画では、このような経験からOPAM、地域、観光施設がそれぞれに培ったノウハウを生かし、三者が連携することで、新しい大分県ならではの「文化観光コンテンツ」を造成し、循環や周遊性を高め、大分県への観光誘客、滞在を促進する。

3-1-3. 他の文化資源保存活用施設との比較

【1.当館の主要地域文化資源と同種の文化資源を有する他の文化資源保存活用施設との比較】

1 大分市美術館（大分市）

- 国の重要文化財を含む田能村竹田を中心とする豊後南画や高山辰雄、福田平八郎の日本画、洋画の佐藤敬、竹工芸の生野祥雲斎、現代美術では吉村益信などのネオ・ダダを含む、大分県、大分市にゆかりのある美術家の作品を中心に収蔵、常設展示している。
- 「富春館展示室（豊後南画展示室）」と竹工芸の常設展示コーナーをもつ。県内在住作家、特に若手アーティストの展覧会を継続的に行い、その支援に積極的である。
- 大分市内の現代アートイベント「トイレンナーレ」や「回遊劇場～ひらく・であう・めぐる～」などを大分駅周辺の商店街全体で開催し、大きな成果を上げている。
- 分館として「アートプラザ」（磯崎新設計）をもつ。大分市出身の世界的建築家・磯崎新の模型、資料を多数収蔵、常設展示している。
- 「アートプラザ」は大分県立美術館の徒歩10分圏内に立地し、周辺の著名建築家による建築物を巡るツアーの造成が可能である。また、現代アーティストと連携した事業展開は、今後の大分県立美術館事業にとっての参考事例である。



(左)(中)大分市美術館 (右)大分市アートプラザ

2 別府市竹細工伝統産業会館（別府市）

- 令和元年度に改装。別府竹工芸の歴史や伝統技法をさまざまな角度から紹介、別府市の「伝統的工芸品別府竹細工イノベーション推進事業」と連携し、体験講座やポータルサイトの運営により国内外に情報発信を行う。「別府竹細工海外販路拡大事業 in ニューヨーク」を開催するなど、産業や観光、商品開発に力を入れている。
- 常時「竹細工制作体験」や「竹の教室」を行っており、児童・生徒の社会体験、観光客の体験施設としての利用者が多数。宿泊業者との連携が強く、紹介する体制ができている。
- 別府観光の一環で訪問する外国人旅行者を意識し、館内表示、解説、パンフレットなどの多言語化が行われており、インバウンド対応の向上に努めている。
- 令和2年度から「別府竹製品協同組合」が指定管理者となり、大分県の伝統工芸品として竹細工産業に関わってきたノウハウを生かした事業を展開している。
- 「竹（バンブー）マルシェ」（職人による「青竹箸」販売と地元食材販売イベント）は、来館者、観光客を竹工芸や竹職人とつなぎ、作品鑑賞への動機付けとして非常に有効である。
- 別府市竹細工伝統産業会館が竹工芸の技術伝承・体験を重視し「伝統産業」に重心を置いているのに対し、OPAMは「美術工芸・アート」を重視しており、役割分担が行われている。



3 COMICO ART MUSEUM YUFUIN (CAMY・由布市湯布院)

- NHN JAPAN株式会社(本社：東京都港区)が文化芸術における社会貢献の一環として2017年に開館。国際的建築家 隈研吾の設計による建物は、湯布院の街並みと自然に溶け込む「ムラ」がコンセプトである。(下図左 館外観 ©NHN JAPAN Corp)
- 日本を代表する現代美術家 村上隆、杉本博司、奈良美智の作品を展示し、アート、自然、温泉の町として知られる湯布院の新しい観光名所として注目を集めている。
(下中央図 館内© Yoshitomo Nara 2017)
- 建築や現代アート、館内庭園を充分に楽しんでもらうため、完全ガイドツアー制による来館者対応を行っている。
- 国内外からの誘客ができる「建築+現代アート」を収蔵し、「美術館の建物や展示作品を堪能するとともに、湯布院の土地と自然を体感できる美術館」であり、「建築+現代アート」というテーマが大分県立美術館との親和性が高い。
- 湯布院観光客の中で、現代アートや建築に興味の高い観光客が来館者であることから、この来館者に対し、OPAMや国東現代アート作品群を紹介し、滞在中にさらに足をのぼす、次の滞在での訪問地として興味・関心をもってもらうための相互広報連携を行いたい。
- 湯布院は海外からも注目を集める観光地であるため、インバウンドを対象にOPAMとCAMY、さらにはその他の県内有名建築・アート鑑賞を組み込んだ文化観光ツアーや体験プログラムを造成することが可能である。
- 2020年には、これまでグループ関連会社のみ利用に限定していた施設内離れ形式の保養宿泊施設COMICO ART HOUSE YUFUINを簡易宿泊施設として一般にも開放。美術館棟と併せてこの施設も隈研吾が手掛けた。素材には木、土、竹が使われており、それぞれが個性を引き立たせながらも調和する素材である。自然素材を主役とした建築は、OPAM所蔵作品とも素材の共通性を見出すことができる。宿泊施設を要していることで、観光拠点としての役割も果たすことが可能である。(下図右 ©NHN JAPAN Corp.)
- 湯布院は横のつながりの強い町でもあることから、この施設から派生して市内の様々な施設等とのかかわりも見込める可能性がある。



4 国立工芸館（東京国立近代美術館 工芸館）

- デジタル手法を用いた作品解説が充実。工芸にはじめてふれる方のために、工芸の見どころをわかりやすく紹介。3D画像でインタラクティブに楽しめる、最新デジタル技術を用いたコーナー『工芸とであう』（タッチパネル方式）を設置。
- 工芸作家の制作背景を紹介。「松田権六の仕事場」金沢出身の人間国宝・漆芸家・松田権六の工房を移築・復元し、作家ゆかりの制作道具や関連資料、記録映像を展示。
- 国の登録有形文化財登録『旧陸軍第九師団司令部庁舎』と『旧陸軍金沢偕行社』を移築・復元して活用した建物。「兼六園周辺文化の森」に立地し、江戸藩政期から現代までの歴史的建造物や文化施設が密集するエリアで、「建築物」鑑賞を目的とした周遊ツアーが造成されている。



写真提供：金沢市

【大分県立美術館OPAMの強み】

1 大分県の中央、東九州の交通の要衝である大分市中心部に立地

- 大分県の中央に位置し、自動車で県内全域から概ね60分以内でアクセス可能。また、東九州エリアにおけるJR路線網のハブである大分駅から徒歩10分という好立地を活かし、カルチャーツーリズムの行程にスムーズに組み込むことができる。
- 大分市では、ワンコイン100円でJR大分駅とOPAM、市美術館などを経由する循環バス「大分きゃんバス」が運行。
- 駐車場250台を有し、地方美術館としての交通アクセスは良好である。

2 地域の自然、歴史、産業と密接に関係する国内最大の「竹工芸」コレクション

- 3-1-1【2】2（1）に記載したように、国内最大の305点のコレクションを持つ。

《竹工芸を所蔵する国公立美術館》

- ・東京国立近代美術館工芸館：生野祥雲斎10点 飯塚琅玕斎5点 他計53点
- ・栃木県立美術館：飯塚鳳斎3点 飯塚琅玕斎31点 他計55点

- 1990年代末から、サンフランシスコのアジア美術館、ボストン美術館、フィラデルフィア美術館、パリのケ・ブランリ美術館など、欧米の主要ミュージアムが竹工芸の優品を数多く收藏し、竹工芸展を開催。特に、2017～2018年に開催されたメトロポリタン美術館アビーコレクション展は約47万人を動員し話題となった。
- これを受けてOPAMが2019年に企画した「竹工芸名品展～ニューヨークのアビーコレクション メトロポリタン美術館所蔵」国内巡回展（当館立ち上がり）が美術館連絡協議会特別賞を受賞。
- 竹工芸は日本の伝統的な茶道、華道と深く関わる工芸品であることから、海外の日本美術愛好家やコレクターの関心を得ていたが、近年では、現代アートの一つとしても高く評価されている。欧米を中心にコレクションを築く収集家が増え、海外に活路を見出し活躍する竹工芸家も多数存在する。

3 フレキシブルで街に開かれた建築空間

- 3-1-1【2】3 に記載したように、OPAMはこの建築空間自体が地域文化資源である。
 - ・1階アトリウムは高さ10m、約1000㎡のフリースペース。美術分野以外のさまざまなイベントを開催することができる。
 - ・1階ミュージアムショップ、2Fカフェ、ライブラリー、教育普及コーナー、3Fホワイエなど、展覧会目的でなくても来館し、美術館を身近に感じることができる。
 - ・建築空間や現代アート、写真撮影を目的とした来館者が多い。
- ※嵐・櫻井翔等の著名人が雑誌の表紙を飾った場所等での撮影が人気。



4 多種多様な企画展・イベントの開催

隣接する音楽ホールとともに県内の芸術文化の中核である。開館以来、多種多様な企画展を開催し、教育、産業、自然・科学、福祉、スポーツなどの他分野と連携したさまざまな事業を開催することで、幅広い世代の来館者がある。年中無休で開館している。

5 新たな誘客・連携コンテンツ ～「宇宙港」・「ホーバークラフト」

(1) 「宇宙港」(スペースポート) を核とした経済循環および観光循環の構築

- ・ 2021年度：ISTS（宇宙技術および科学の国際シンポジウム）大分県府大会開催
- ・ 2022年度以降：Virgin Orbit日本(大分空港)から最初の打ち上げ予定
- ・ 本県に来訪する欧米からの打ち上げ事業者、関係者、投資家、衛星事業者は地域の文化や歴史への関心が高い知識層である。彼らはVIPであり、大分県観光にとって、重要で新しいインバウンドとなる。

(2) 「大分空港海上アクセス旅客ターミナル」の誕生とホーバークラフト運行開始

① 「大分空港海上アクセス旅客ターミナル（仮称）」開設（2023年）

- ・ 国際的建築家・藤本壮介による設計で新たな地域芸術文化資源となる。

② 大分空港～大分市間にホーバークラフトを活用した新しい周遊ルートが開設（2023年）

- ・ ホーバークラフトはアジア唯一の交通機関。大分市側の発着地はOPAMから車で数分。
- ・ ホーバークラフトの希少価値は誘客のツールとなる。
- ・ これまで大分空港からバスで別府や湯布院に直行していた旅客が、ホーバークラフトを活用し、大分市経由で別府などに向かう新しいルートが生まれる。
- ・ 大分空港と同様に、OPAMコレクションのサテライト展示等が可能。



【大分県立美術館の弱み】

1 コレクション展に関すること

- 年5～6回テーマを設定し、主要な文化資源を年間通じて紹介しているが、開館以来、入館者や企画展と比較して来場者数が非常に少ない。
- 「提示型展示」方式のため、展示内容、作家、作品、背景に関するわかりやすい解説、多彩な情報提供が不足しており、多言語対応、デジタル解説等も不十分である。

2 館内施設に関すること

- 館内案内表示、動線、マップ表示が分かりにくい。
- 館内に無料Wi-Fiシステムがない。
- 館内施設や解説の多言語化表示が不十分である

3 企画展に関すること

- 地域で開催されている芸術祭（別府・国東等）との連携が不十分であり、地域と連動した誘客が行われていない。

4 地域や観光分野連携に関すること

- 県外観光客に対して行った「関心のある大分市内の観光資源」についての調査では、OPAMは6.7%で市内9施設中最下位。（2016年）
- コレクションと関係する地域の文化施設、観光業との連携実績が少なく、鑑賞者が地域と往來する循環が現状では弱い。

3-2. 課題

課題1：地域文化資源（主要コレクション）の展示内容、解説方法、情報発信が不十分

- 主要コレクションは、地域の風土、歴史に根ざした魅力的な作品であるが、「コレクション展」での取り扱いが単なる「提示型展示」にとどまっている。
- 主要コレクションについて、作品の背景等の詳しい解説が不十分であり、地域との連携も行われていないため、地域を来訪する動機付けとなっていない。
- 主要コレクションの魅力を国内外の美術愛好家に伝えるため、既存のデータベースシステムのデータ件数及び検索機能の強化を図り、画像、作品解説の拡充や、多言語化、音声化を進める必要がある。

課題2：地域（別府・国東、湯布院）の文化施設、大型芸術祭、在住作家、観光業等との連携が不足しており、地域とのモノ、ヒト、コトの往来、循環が不十分

- 大分県は国内外に「おんせん県おおいた」として観光PRしており、月間30万～40万人が来県し、宿泊している（大分県観光統計調査）。
- 国内随一の充実した竹工芸コレクションを持つにも関わらず、「別府市竹細工伝統会館」や「大分県立竹工芸訓練センター」との連携が不足しているため、人の往来が薄い状況である。
- 県内各地に竹工芸家が工房を持ち、それぞれが海外に顧客やギャラリー契約を持っている。それらの工房を訪問するアクティビティを行う旅館・ホテルもある中、OPAMは、名品を展示している自館に宿泊客を訪問させるような提案を、それらの旅館等に対して行っていない。
- 湯布院は1990年代から滞在型保養地として発展し、アートな雰囲気は高いが、個人ギャラリーが主で、国際的な美術作品を鑑賞できるのはCOMICO ART MUSEUM YUFUINと湯布院空想の森artegioのみ。本格的な美術鑑賞、文化観光を好む層は特に高級旅館に大きな需要があるが、OPAMへ誘引する取組はこれまで行われていない。
- 別府・国東地域では、大分県とBEPPU PROJECTと地域が密接に連携しながら、10年にわたり継続的な現代美術祭を開催している。現代アートと地域の自然・歴史を組み合わせ、体験プログラムなども造成することで、瀬戸内現代芸術祭などを好む若い女性層にアピールし、これまで別府の温泉客には少なかった20-30代女性の観光客層を約20%まで獲得している。しかし、その観光客をOPAMの誘客につなげる取組は行われていない。
- OPAM（坂茂）、由布院駅舎（磯崎新）をはじめ、県内には著名建築家による建築物が多数存在するが、その存在はあまり広報されていない。「建築」を目的とした海外、県外からの需要を、県内の優れた建築と結び付ける取組が求められている。
- OPAMは地方美術館としては、相当数の入館者数があるが、観光客への誘客策が乏しく、観光客を循環させるための交通手段やアクセス方法の情報提供などの面も不十分である。

課題3：アートへの関心が高く、地域文化体験の満足を求める富裕層やインバウンドへの誘客取組が行われていない。

- 別府に近年相次ぐ、高級ホテル（ANAインターコンチネンタルホテル別府リゾート&スパ、星野リゾート界 別府、AMANE RESORT GAHAMA、ガレリア御堂原）、湯布院の「由布院玉の湯」「亀の井別荘」「山荘無量塔」等は、竹工芸、小鹿田焼などの地域の工芸品、現代アーティスト作品をインテリアとして利用する姿勢が強い。こうした高級ホテル・旅館の宿泊者はアートへの関心も高く、連泊、リピート宿泊、特別な体験プログラムを利用する傾向が高い富裕層である。その一方で、OPAMはこうした別府、湯布院に宿泊する富裕層への働きかけが不十分である。

課題4：「大分県立美術館」の建築空間を活かした事業展開や施設利用促進が必要

- 1 F アトリウム（無料スペース）は、さまざまなイベント開催が可能な建築的特性をもっており、県民の憩いの場であるとともに、国内外からの観光客等が立ち寄っている。しかし、大分市内中心部に立地し、フレキシブルに対応できる建築空間をもちながら、ソフト面での取組が弱いため、ユニークベニュー等に十分活用できていない。
- 「建築・現代アート」を目的とした来館者が、館内散策を楽しむための解説が不足している。
- 建築見学、休憩等で、アトリウムを利用する来館者を3 F コレクション展や企画展へと誘客するための取組が行われていない。

課題5：施設の利便性、多言語表示など物理的なゲートウェイ機能が不十分

- 館内に無料Wi-Fiが整備されておらず、インバウンドを含む来訪者がインターネットを手軽に利用することができない。
- 館内表示は日本語が主であり、グレーのピクトグラムによる案内表示がわかりにくいという指摘が多い。
- 英語、韓国語、中国語の館内パンフレットはあるが、館内に多言語による案内表示はない。
- ホームページの館内概要は、日英韓中で表示されるが、展覧会概要やコレクションデータは日英のみである。
- インターネットを利用した効果的な各種情報発信、多言語による情報発信ができていないため、インバウンドに対しての誘客活動が不十分である。
- コレクション展での多言語表示は作品名の英語のみ、8割に近いアジア系来場者への多言語対応ができていない。海外から訪れる美術愛好者に十分に作品の背景や価値を伝えることができていないため。

3-3. 文化観光拠点施設としての機能強化に向けて取組を強化すべき事項 及び基本的な方向性

取組強化事項1：竹工芸コレクションのブランド化（磨き上げ）を図る

- (1) 「OPAMでは竹工芸の名品がみられる」、「竹と日本の伝統文化を知ることができる」というイメージを浸透させ、竹工芸コレクションのブランド化を図るため、竹工芸作品や資料調査を強化し、収蔵作家のみならず在住若手作家等も調査対象とし、「竹」をテーマとした展示内容や体験コンテンツを強化、拡充する。
- (2) 地域資源の魅力を来場者に伝え、例えば「なぜ、竹工芸が別府地域で発達したのか」などを地域の自然、歴史等と関連づけ、映像資料も取り入れながらストーリー性をもって詳しく解説する。竹工芸の美しさ、芸術性だけでなく、その作品が生まれた別府地域への興味・関心を高めるよう、解説の充実を行う。
- (3) 学芸員やボランティアガイド、在住作家によるギャラリートークを充実させることで、鑑賞者の満足度を高める。
- (4) 美術工芸や芸術文化のインフルエンサー（例：国立工芸館名誉館長 中田英寿氏など）によるWEBツアーを開催し、OPAMの竹工芸と別府地域との関係にスポットをあて、国内随一の「竹工芸コレクション」のブランド化を図る。
- (5) 竹工芸作品の全方位鑑賞や主要作品の詳しい解説（多言語化含む）により、竹工芸や主要コレクションをより深く理解し、鑑賞者の満足度を高め、「もっと違う作品も見たい」、「もう一度見たい」という気持ちを高めることができるように解説システムを拡充する。

- (6) コレクションのデータベースシステムを改修し、新設する「デジタルミュージアム」との連携を図る。
- (7) インターネットを介して、デジタルでないとできない作品鑑賞システムを導入することで、美術愛好家のOPAMコレクションへの興味・関心を高め、実際の来館へとつなげる。
- (8) OPAMの思い出となる大分県でしか手にはいらない商品を開発し、大分観光の魅力創出となる取り組みを行う。

取組強化事項2：地域文化資源（竹工芸、建築、現代アート）をテーマとして、地域文化施設、在住作家工房、宿泊施設等の観光業界と連携し、地域との連動、循環を強化する

- (1) 竹工芸の展覧会場では、地域（別府）の自然風土、歴史との深いかかわりを詳しく伝え、鑑賞した来場者に、「制作体験したい」、「関係する地域に行ってみたい」「作品制作現場が見たい」「作品やグッズを購入したい」「有名な温泉と地域文化を楽しみたい」という気持ちを抱かせ、地域の文化施設、作家工房、県内販売店、宿泊施設を利用する契機を提供する。
- (2) 竹をテーマとした「竹（バンブー）マルシェ」を、OPAMと地域、主要な観光、交通、宿泊施設等で開催し、見る、作る、買う、食べる、をコラボさせることで、文化資源、作家、産業、観光をつなぐ取り組みを行う。
- (3) 地域文化資源（建築、現代アート）をテーマとして、全国有数の滞在型温泉保養地である別府・由布院温泉と連携を図り、アクティビティ（体験プログラム）等を造成することで、これまで希薄であったOPAMと主要観光地との間に新しい観光循環の創出する取り組みを行う。
- (4) OPAMで、別府・国東半島で様々なイベントを行うBEPPEU PROJECTの活動と連動・連携した企画展やイベントを開催し、それを活用した旅行商品を造成することで、OPAMと別府・国東半島との間の周遊を促進する。
- (5) 国際的な音楽祭や学会、イベント等の開催にあわせ、OPAMがエクスカーションでの訪問先となるように、主催団体に働きかける。

取組強化事項3：地域文化の魅力を来館者や来訪者に伝える人材を育成する

- (1) OPAMのスタッフの観光に関する情報提供力を強化する。
- (2) 作品だけでなく、作品の背景を伝えることで地域への誘客を図るため、新たにボランティアガイドによるギャラリートークを行う。
- (3) 取組強化事項2（3）の体験プログラムについて、プログラムを企画・コーディネートし、多言語対応も可能なスペシャルガイドを育成する。

取組強化事項4：OPAMの建築空間を活かし、ユニークベニユー等としての活用を促進する

- (1) フレキシブルな建築空間を生かし、他分野の展示会やイベント等での利用を促進する。
- (2) 建築空間の美しさを活かし、「被写体」としての新しい施設の利用を促進する。
- (3) 夜間に、昼間とは違う照明による建物の魅力を活かした、写真撮影会等のイベントを開催し、ユニークベニユーとしての新しい活用に取り組む。

取組強化事項5：OPAMを文化観光のゲートウェイに位置付けるため、各種交通機関との連携強化や、館内のインフラ整備に取り組む

- (1) 大分県の玄関口である大分空港と連携し、大分空港とOPAMとをつなぐ事業や広報を行

う。

- (2) ホーバークラフト再開時に、「大分空港海上アクセス旅客ターミナル」からOPAMを経由して観光地に向かう循環が起きる方策を検討する。
- (3) 別府・国東、湯布院の観光客に対し、公共交通機関を利用したOPAMへのアクセス情報を提供する。
- (4) 交通事業者と連携し、交通運賃とOPAMの入場料のセット券の開発を検討・実施する。
- (5) 県内観光の主要な移動手段が「自家用車・レンタカー」であるため、地域文化資源をテーマとして循環するためのマップを作成する。
- (6) 来館者がOPAMをスムーズに利用できるように案内表示を改良し、あわせてデジタルサイネージを導入した情報提供の拡充を図る。
- (7) 館内で、インターネットにより観光情報を得られるよう、無料Wi-Fiを導入する。

取組強化事項6：別府、湯布院に滞在する美術に関心の高い富裕層を対象とした特別鑑賞プログラムを造成する。

- (1) 別府、湯布院に滞在する富裕層は本格的な美術鑑賞への関心も非常に高い。こうした旅行者を対象として、日本文化が体験できる特別な設えの会場で、OPAMの代表的所蔵品を学芸員の特別解説を聞きながら、展示ケースなしで鑑賞する特別鑑賞プログラムを造成する。

取組強化事項7：多元言語化対策の改善によるインバウンド対応の向上

- (1) 来県する海外旅行者や来館者の動向を踏まえ、ホームページや館内表示、展覧会場での解説テキストなどの多言語化（日英中韓）を進める
- (2) コレクション作品データベースや、ウェブ上の作品解説などは、日英中韓で記載し、海外の美術愛好家が利用できる環境を整える。
- (3) ギャラリーガイドや特別鑑賞プログラムに参加する外国人に向けて、学芸員が英語での解説を行う。
- (4) 「おんせん県おおいた多言語コールセンター」を活用し、17か国語による24時間年中無休のサポートを受けられる体制作りを行う。

取組強化事項8：地域と連携した国内外への情報発信の強化

- (1) 大分県内の芸術文化施設やカルチャーツーリズム関連のサイトを統合し、一元的に情報発信できるポータルサイトを制作する。 動画や美しい写真を掲載した日本語と英語のページを作成し、SNSを活用したプロモーションのための着地情報を整備する。
- (2) 館内のインフォメーションに「おおいたカルチャーツーリズム」のリアル・ポータルサイトの役割を付加し、スタッフが来館者に対しカルチャーツーリズム関連の情報を提供する。
- (3) ツーリズムおおいた、大分県旅館ホテル生活衛生同業組合加盟の宿泊業者に対し、OPAMの前売券の販売や、宿泊と入場券を組み合わせた宿泊パックの設定、宿泊者割引などの導入を働きかける。
- (4) APU（別府市・立命館アジア太平洋大学）と連携し、留学生がSNSにより、母国語でOPAM及びカルチャーツーリズムに関する情報発信を行う。
- (5) 別府市竹細工伝統産業会館、由布市ツーリストインフォメーションセンター、COMIC O ART MUSEUM YUFUIN、大分空港等でOPAMコレクションをサテライト展示するとともに、OPAMでは各施設のパンフレットの設置等を行うことで、OPAMと地域との周遊基盤を整える。

3-4. 地域における文化観光の推進への貢献

1. 大分県内の観光振興、地域の活性化への好循環の創出

○近年、大分県は、別府や国東半島で大型の現代芸術祭を継続的に開催し、これを目的に来県して地域を巡る若い女性を中心とした層が定着している。本計画の取組により、このカルチャーツーリズムの流れに、OPAMや地域の文化施設が積極的に関与する体制が整うことから、本県の芸術文化をこれまで以上に深くアカデミックに観光客に伝えることができる。

○OPAMコレクションのうち、竹工芸は大分県唯一の伝統工芸品「別府竹細工」と深く関係しており、別府市にある「大分県立竹工芸訓練センター」の修了生の中から、国際的にも活躍する竹工芸家を輩出している。本計画により、OPAMが竹工芸の魅力を全国や世界に向けて積極的に発信し、彼らの作品も展示・販売することで、竹工芸に対する評価の向上と、在住作家の経済的支援につながる。

○近年、竹は日本文化の象徴の一つとして活用されており、海外の富裕層を主要ターゲットとした「インターコンチネンタル別府リゾート&スパ」でも、竹が建築デザインに多く取り入れられている。このように、別府温泉では地域を象徴するコンテンツとして竹の活用が定着しているが、OPAMからの情報発信拡充により「竹」の魅力をさらに高め、地域文化観光のPR強化にもつながる。

また、OPAMと別府地域との間に、双方向の作品・人・モノ・コトの往来が創出される。

○別府、湯布院等の温泉を主目的に来県する観光客に対して、「竹・現代アート・建築」を中心とした新たなコンテンツを提供することにより、泊数の増加や再訪の動機付けを与える。これにより、本県観光の活性化につなげることができる。

2. 県内在住作家の支援促進

○地域文化資源の展示にあわせて、県内在住作家の作品展示や制作実演、ミュージアムショップでの作品販売を行うことで、在住作家の経済的支援を強化する。

○OPAMや地域文化施設が、作家や作品の情報発信を積極的に行うことにより、在住作家に対する個展開催、展覧会出品、作品制作、作品・商品購入の機会増加につながる。

3. 県内の文化観光にかかる人材育成促進

○本計画ではOPAMと地域の宿泊先をスタートまたはゴールに、地域の自然、歴史、食、生活に触れるアクティビティを創出し、その「文化観光ガイドツアー」を行う人材を同時に育成する。カルチャーツーリズムを専門とするスペシャルガイドの育成により、他地域との差別化を図ることができる。

3-5. 文化の振興を起点とした、観光の振興、地域の活性化の好循環の創出

1. 県内宿泊者数、連泊数増加による地域活性化と経済循環の創出

○訪日外国人消費動向調査（2019年）によると、

- ・大分県の訪問率 : 3.3%（全国第14位）
- ・大分県への訪日外国人観光客の訪問者数 : 1,053,479人（全国第14位）
- ・大分県の訪日外国人観光客宿泊数 : 1,181,140人（全国第16位）
- ・大分県の訪日外国人の平均宿泊数 : 1.9泊（全国第43位）
- ・大分県のインバウンド消費金額 : 22,930円（全国第42位）
- ・大分県への「Japan Free Wi-Fi」登録件数 : 1,711施設（全国第33位）

○外国人訪問者数は相対的に高いが、宿泊数が非常に低いため、連動して消費金額が低い。

○本計画実施により宿泊者数、連泊者数が増加することで、宿泊費、飲食費、土産購入費、交通費、入場料の増加が見込まれる。さらに、観光客の増加による地域内での観光消費の拡大により、地域経済の活性化させることで、県税収入、美術館観覧料収入が増加し、美術館でのより一層魅力のある企画展の実施や地域文化資源の作品購入などへもつなげることができる。

○また、OPAMの企画展の収益があがることで、次なる企画展（海外誘致展や単独の大規模展）の事業費を嵩上げし、より良質で大規模な展覧会を開催することができる。

2. 県内文化施設、観光地、自然、歴史、食への新しいアプローチを示す

○OPAMが中核となって、地域や観光分野と積極的に連携、協力した取組は、これまでになかった。今回「竹工芸」「建築」「現代アート」という地域文化資源の柱を設定することで、地域の文化芸術活動や食文化を含めた地域文化資源を掘り起こし、新しい魅力を提示する。

○これまで大分県を訪問したことがなかった美術愛好家、旅行好きによる消費行動を引き起こし、同時に県内観光業が文化施設を観光資源として積極的に連携しようとする機運を醸成できる。

3. 県内在住作家の支援による地域活性化

○県内在住作家の作品紹介、制作実演などの体験プログラムや工房訪問を通しての作品販売により、県内在住作家に発表の場と経済的支援の一助となる事業を行う。

○県内在住作家が作家活動を活発化することにより、コラボ商品やサービスの開発、県外での作品発表機会増加へとつなげることで、アーティストの定住、移住による地域活性化を図る。

4. 他分野への波及による地域活性化

○本計画では、OPAMでの地域文化資源活用を契機とし、地域文化、歴史、自然、食を題材とした体験プログラムや商品開発、地域文化観光に専門的に携わる人材育成を同時実施する。これらを、地域文化施設や観光業、地域ですすでに行われている多彩なアートプロジェクトや文化イベントと連動させることで、OPAMでの事業や取り組みが、地域の観光や産業振興に繋がりを、その分野での経済的循環がおこる状況から、その地域への定住・移住が促進される。

○拠点施設を活性化し大分市への観光誘客につなげるために、別府プロジェクト等の共同申請者や民間のステークホルダーと柔軟に連携する。

4. 目標

目標①：大分県立美術館来場者数（国内）（課題１・２・３・５関連、取組強化事項１・２・４・５・８関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

中核拠点（大分県立美術館）を指定管理する公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団中期経営戦略計画の目標値に準ずるもの。

コレクション展と企画展の合計来場者数を目標設定にする。コレクション展、企画展受付でのカウントで把握する。

年度	実績		目標				
	R1 年	R2 年 (2021 年 3 月 14 日現在)	R3 (2021) 年	R4 (2022) 年	R5 (2023) 年	R6 (2024) 年	R7 (2025) 年
目標値（国内）	70,186 人	98,377 人	100,000 人	110,000 人	120,000 人	130,000 人	140,000 人
（事業番号１－①） 「竹」と「日本の美」 をテーマとしたコレ クションシリーズ展 示および企画展事業			①「おおいた竹も のがたり（仮称）」 シリーズ展示開催	①「おおいた竹も のがたり（仮称）」 シリーズ展示開催	①「おおいた竹も のがたり（仮称）」 シリーズ展示開催	①「おおいた竹も のがたり（仮称）」 シリーズ展示開催 ②自主企画展（竹 工芸）	①「おおいた竹も のがたり（仮称）」 シリーズ展示開催
（事業番号１－③） 国東・別府地域との周 遊性と観光循環向上 のための展示・イベン ト事業			企画展開催	企画展またはイ ベント開催	企画展またはイ ベント開催	企画展またはイ ベント開催	企画展またはイベ ント開催
（事業番号５－③） 大分県内文化施設お よび宿泊業、大学等と の連携による誘客広 報事業			①大分空港・別府・ 由布市 TIC 広報 ②APU 連携広報 ③WEB ツアー	①大分空港・別府・ 由布市 TIC 広報 ②APU 連携広報 ③WEB ツアー	①大分空港・別府・ 由布市 TIC 広報 ②APU 連携広報 ③WEB ツアー	①大分空港・別府・ 由布市 TIC 広報 ②APU 連携広報 ③WEB ツアー	①大分空港・別府・ 由布市 TIC 広報 ②APU 連携広報 ③WEB ツアー

目標②：大分県立美術館来館者数（国外）（課題３・５関連、取組強化事項１・３・６・７・８関連）							
（目標値の設定の考え方及び把握方法） 海外団体利用者数 R1：935 人から R1 実績を 2000 人（推計）とし、コロナ感染症による回復が R5 年度以降と考え、以降は前年比×1.5 倍で計画。 来館時、コレクション展受付、企画展受付でのカウントで把握する。							
年度	実績		目標				
	R1 年	R2 年	R3 (2021) 年	R4 (2022) 年	R5 (2023) 年	R6 (2024) 年	R7 (2025) 年
目標値（国外）	2000 人	245 人 (12/1 ～3/14)	1,000 人	1,500 人	2,000 人	3,000 人	4,500 人
（事業番号２－②） インバウンドを対象とした地域文化資源（竹工芸、建築、屋内外設置現代アート作品）についての理解促進事業			①コレクション展シリーズ展示の主要解説パネル、配布パンフレットを多言語表示 ②英語によるツアーガイド(学芸員)	①コレクション展シリーズ展示の主要解説パネル、配布パンフレットを多言語表示 ②英語によるツアーガイド(学芸員)	①コレクション展シリーズ展示の主要解説パネル、配布パンフレットを多言語表示 ②英語によるツアーガイド(学芸員)	①コレクション展シリーズ展示の主要解説パネル、配布パンフレットを多言語表示 ②英語によるツアーガイド(学芸員)	①コレクション展シリーズ展示の主要解説パネル、配布パンフレットを多言語表示 ②英語によるツアーガイド(学芸員)
（事業番号３－①） 大分県アートのスポット循環および利用アクセスの向上事業	－	－	①アクセスマップ（日本語） ②シャトルバス運行 ③九州レールパス原稿作成 ④レンタカーパンフレット掲載内容検討・交渉	①アクセスマップ（日本語・英語） ②シャトルバス運行 ③九州レールパス掲載 ④レンタカーパンフレット掲載（日・英）	①アクセスマップ（日本語・英語・韓国語）作成 ②シャトルバス運行 ③九州レールパス掲載 ④レンタカーパンフレット掲載（韓国語）	①アクセスマップ（日本語・英語・韓国語・中国語（繁体字）作成 ②シャトルバス運行 ③九州レールパス掲載 ④レンタカーパンフレット掲載（中（繁体字））	①アクセスマップ（日本語・英語・韓国語・中国語（繁体字・簡体字）作成 ②シャトルバス運行 ③九州レールパス原稿作成 ④レンタカーパンフレット掲載（中（簡体字））

(事業番号3-②) 大分県立美術館施設案内表示改善、デジタル化、多言語化促進事業	-	-	①各階ごとにフロアマップ(多言語表示)設置 ②移動式の館内案内表示パネル(多言語表示)設置 ③館内無料 Wi-Fi システム設置 ④キャッシュレスシステム検証	①デジタルサイネージ設置・運用(日・英) ④キャッシュレスシステム導入検討	①デジタルサイネージ運用(日・英・韓) ④キャッシュレスシステム導入検討	①デジタルサイネージ運用(日・英・韓・中(繁体字)) ④キャッシュレスシステム導入検討	①デジタルサイネージ運用(日・英・韓・中(繁体字・簡体字)) ④キャッシュレスシステム導入検討
(事業番号5-①) 大分県立美術館ホームページ多言語化事業	運用(日・英) 一部(韓・中)	運用(日・英) 一部(韓・中)	運用(日・英)	運用(日・英・韓)	運用(日・英・韓・中(繁体字))	運用(日・英・韓・中(繁体字・簡体字))	運用(日・英・韓・中(繁体字・簡体字))

目標③：大分県立美術館利用者の満足度（課題1・4・5関連、取組強化事項1・3・4・5関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

拠点（大分県立美術館）の魅力や来訪者の目的はコレクション展や企画展のみならず、ショップ、カフェ、フリースペースの利用などさまざまである。本事業では、拠点の魅力増進のため、展覧会での作家や作家解説の充実、デジタル化の促進、館全体の施設の利便性、カフェ・ショップの充実を企図しており、それらの成果を美術館利用者の満足度を指標としてみる。基準値はR1年コレクション展の展示内容「大変満足」の割合から設定した

「大変満足」の合計割合+3%/年目標

・コレクション展での特別展示を含む年間コレクション展のアンケート、美術館施設でのアンケート（WEB含む）等により満足度を把握する。

年度	実績		目標				
	R1 年	R2 年	R3 (2021) 年	R4 (2022) 年	R5 (2023) 年	R6 (2024) 年	R7 (2025) 年
目標値：大変満足割合	33.4%	49%	52%	55%	58%	61%	64%

(事業番号 1-②) 大分県立美術館ボランティアガイド育成事業	-	-	ガイド育成 館内ツアー、ギャラ リートーク開催	ガイド育成 館内ツアー、ギャラ リートーク開催	ガイド育成 館内ツアー、ギャラ リートーク開催	ガイド育成 館内ツアー、ギャラ リートーク開催	ガイド育成 館内ツアー、ギャラ リートーク開催
(事業番号 1-④) 大分県立美術館の「建 築空間」を活用した施 設有効利用促進事業			①ナイトミュージ アム検討・準備 ②建築ガイドシス テム開発・原稿作成 ③「まちめぐり建築 ツアー」造成 ④写真ワークショ ップ・撮影会開催 ⑤ミュージック in ミュージアム開催	①ナイトミュージ アム開催 ②建築ガイドシス テム運用 ③「まちめぐり建築 ツアー」運営 ④写真ワークショ ップ・撮影会開催 ⑤ミュージック in ミュージアム開催	①ナイトミュージ アム開催 ②建築ガイドシス テム運用 ③「まちめぐり建築 ツアー」運営 ④写真ワークショ ップ・撮影会開催 ⑤ミュージック in ミュージアム開催	①ナイトミュージ アム開催 ②建築ガイドシス テム運用 ③「まちめぐり建築 ツアー」運営 ④写真ワークショ ップ・撮影会開催 ⑤ミュージック in ミュージアム開催	①ナイトミュージ アム開催 ②建築ガイドシス テム運用 ③「まちめぐり建築 ツアー」運営 ④写真ワークショ ップ・撮影会開催 ⑤ミュージック in ミュージアム開催
(事業番号 1-⑨) 大分県立美術館コレク ションデータベース改 修・拡充事業			既存データベース 改修のためのヒア リング、システム内 容検討、	データベース拡充 (多言語化) データ 作成	データベース新(改 修) システム導入、 テスト運用開始・新 規データ追加	データベース運用 新規データ追加	データベース運用 新規データ追加
(事業番号 2-①) デジタルミュージアム 「おおいた美の宝」(仮 称) システム事業			①システム構築 ②竹工芸データ作 成開始・テスト運用 開始	①システム構築・運 用開始 ②主要作品 50 点コ ンテンツ制作(多言 語化・音声化)	①システム運用 ②主要作品 50 点コ ンテンツ制作(多言 語化・音声化)	①システム運用 ②主要作品 50 点コ ンテンツ制作(多言 語化・音声化)	①システム運用 ②主要作品 50 点コ ンテンツ制作(多言 語化・音声化)
(事業番号 2-③) コレクション展および 企画展理解・満足度向 上事業			①学芸員ギャラリ ートーク開催 ②出品作家ギャラ リートーク開催	①学芸員ギャラリ ートーク開催 ②出品作家ギャラ リートーク開催	①学芸員ギャラリ ートーク開催 ②出品作家ギャラ リートーク開催	①学芸員ギャラリ ートーク開催 ②出品作家ギャラ リートーク開催	①学芸員ギャラリ ートーク開催 ②出品作家ギャラ リートーク開催

(事業番号4-②) おおいた文化資源活用 商品販売促進事業			OPAM コレクション および地域文化資源をモチーフとした商品開発、ミュージアムショップでの販売	OPAM コレクション および地域文化資源をモチーフとした商品開発、ミュージアムショップでの販売	OPAM コレクション および地域文化資源をモチーフとした商品開発、ミュージアムショップでの販売	OPAM コレクション および地域文化資源をモチーフとした商品開発、ミュージアムショップでの販売	OPAM コレクション および地域文化資源をモチーフとした商品開発、ミュージアムショップでの販売
(事業番号4-③) 大分県の食材を使用したカフェメニュー提供事業			展覧会事業に関連した大分県の食材を使用したカフェメニュー提供	展覧会事業に関連した大分県の食材を使用したカフェメニュー提供	展覧会事業に関連した大分県の食材を使用したカフェメニュー提供	展覧会事業に関連した大分県の食材を使用したカフェメニュー提供	展覧会事業に関連した大分県の食材を使用したカフェメニュー提供
(事業番号6-①) 大分県立美術館施設利用の利便性向上事業			全館対応する無料Wi-Fi システム設置	Wi-Fi 機能運用	Wi-Fi 機能運用	Wi-Fi 機能運用	Wi-Fi 機能運用

目標④：来場者の中での宿泊者の割合（課題関連2・3）取組強化事項関連（2・5・6）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

本事業では観光分野との連携を図り、県内宿泊者が県立美術館や地域文化施設を訪問するとともに大分県ならではの「カルチャーツーリズム」を体験できる仕組みを構築する。現在、県外来場者が約3割程度であることから目標値を設定し、+3%/年を目指す。（来場者アンケートより把握）

年度	実績		目標				
	R1 年	R2 年	R3 (2021) 年	R4 (2022) 年	R5 (2023) 年	R6 (2024) 年	R7 (2025) 年
目標値	—	—	20%	23%	26%	29%	32%
(事業番号1-⑤) おおいた観光エリア連携によるサテライト展示・イベント事業			①サテライト展示 ②在住竹工芸作品展開催 ③竹（バンブー）マルシェ等開催	①サテライト展示 ②在住竹工芸作品展開催 ③竹（バンブー）マルシェ等開催	①サテライト展示 ②在住竹工芸作品展開催 ③竹（バンブー）マルシェ等開催	①サテライト展示 ②在住竹工芸作品展開催 ③竹（バンブー）マルシェ等開催	①サテライト展示 ②在住竹工芸作品展開催 ③竹（バンブー）マルシェ等開催

(事業番号4-①) おおいた文化観光循環 にかかる旅行業関係へ の広報事業			①旅行パンフレット掲載「てっぱんおおいた」掲載 ②企画展ツアー造成 ③旅行社モニターツアー ④内覧会・ギャラリートークへの旅行関係者招待	①旅行パンフレット掲載「てっぱんおおいた」掲載 ②企画展ツアー造成 ③旅行社モニターツアー ④内覧会・ギャラリートークへの旅行関係者招待	①旅行パンフレット掲載「てっぱんおおいた」掲載 ②企画展ツアー造成 ③旅行社モニターツアー ④内覧会・ギャラリートークへの旅行関係者招待	①旅行パンフレット掲載「てっぱんおおいた」掲載 ②企画展ツアー造成 ③旅行社モニターツアー ④内覧会・ギャラリートークへの旅行関係者招待	①旅行パンフレット掲載「てっぱんおおいた」掲載 ②企画展ツアー造成 ③旅行社モニターツアー ④内覧会・ギャラリートークへの旅行関係者招待
(事業番号5-②) 大分県芸術文化情報総合ポータルサイト事業			①大分県芸術文化情報総合ポータルサイトの設置 ②新規コンテンツ追加掲載（県内文化施設およびスポット情報（日・英） ③ツアー、体験プログラムツアーに関する情報掲載（日・英） ④SNS によるデジタルプロモーション実施（日・英）	②新規コンテンツ追加掲載（県内文化施設およびスポット情報（日・英） ③ツアー、体験プログラムツアーに関する情報掲載（日・英） ④SNS によるデジタルプロモーション実施（日・英）	②新規コンテンツ追加掲載（県内文化施設およびスポット情報（日・英） ③ツアー、体験プログラムツアーに関する情報掲載（日・英） ④SNS によるデジタルプロモーション実施（日・英）	②新規コンテンツ追加掲載（県内文化施設およびスポット情報（日・英） ③ツアー、体験プログラムツアーに関する情報掲載（日・英） ④SNS によるデジタルプロモーション実施（日・英）	②新規コンテンツ追加掲載（県内文化施設およびスポット情報（日・英） ③ツアー、体験プログラムツアーに関する情報掲載（日・英） ④SNS によるデジタルプロモーション実施（日・英）

目標⑤：地域資源にかかる体験プログラム・鑑賞プログラム参加者の満足度（（課題関連１・３）取組強化事項関連（１・３・６））

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

本事業では観光分野との連携を図り、県内宿泊者が県立美術館や地域文化施設を訪問するとともに大分県ならではの「カルチャーツーリズム」を体験できる仕組みを構築する。体験プログラム参加者の満足度は、大分県のカルチャーツーリズム全体の促進、次の来県、来館、消費活動を誘発するため。

展覧会満足度を基準に設定。「大変満足」の合計割合+３％／年目標 ・体験プログラム参加者アンケートにより把握

年度	実績		目標				
	R1 年	R2 年	R3 (2021) 年	R4 (2022) 年	R5 (2023) 年	R6 (2024) 年	R7 (2025) 年
目標値：大変満足割合	—	—	５０％	５３％	５６％	５９％	６２％
（事業番号１－⑥） 宿泊施設と連携したアート体験プログラム造成事業			「竹工芸」「建築」「現代アート」をテーマとした体験プログラムの造成	体験プログラムブラッシュアップ・販売継続	体験プログラムブラッシュアップ・販売継続	体験プログラムブラッシュアップ・販売継続	体験プログラムブラッシュアップ・販売継続
（事業番号１－⑦） おおいたアート体験プログラムスペシャルガイド育成事業			スペシャルガイド育成・活動準備	スペシャルガイド育成継続・実地活動	スペシャルガイド育成継続・実地活動	スペシャルガイド育成継続・実地活動	スペシャルガイド育成継続・実地活動
（事業番号１－⑧） 高付加価値の大分県立美術館コレクション特別鑑賞プログラム造成			特別鑑賞プログラムの造成	特別鑑賞プログラムのブラッシュアップ・販売継続	特別鑑賞プログラムのブラッシュアップ・販売継続	特別鑑賞プログラムのブラッシュアップ・販売継続	特別鑑賞プログラムのブラッシュアップ・販売継続

5. 目標の達成状況の評価

- (1) 個々の施策の事業効果の精緻化、各事業について関連する目標の達成状況検証を、大分県立美術館ならびにツーリズムおおいた（地域連携DMO）と緊密に行い、事業実施・評価を機動的に活動できる体制を整える。
- (2) ツーリズムおおいたがもつ地域連携DMOの機能を生かし、客観的な観光関連データの集約・分析、誘客に結びつく各種データの解析、WEB調査や観光客の動態調査、宿泊事業者等と連携したモニタリング調査等を、より効果的な方法で実施する。
- (3) OPAMで実施している来館者および来場者アンケート、体験プログラムやツアー参加者へのアンケートの調査結果など、評価の基礎となる数値の把握、整理を行う。
- (4) 商工観光労働部観光局と連携し、毎月の大分県観光統計データを分析する。
- (5) 上記をふまえ、事業申請者および共同申請者、関係する地域文化施設等の関係者による事業報告会（目標達成検証会）を年1回開催し、本拠点計画に基づき実施された事業の効果を目標に照らして適切に把握し、改善につなげる方法等について協議、次年度の事業に反映させる。

6. 文化資源保存活用施設

6-1. 主要な文化資源についての解説・紹介の状況

6-1-1. 現状の取組

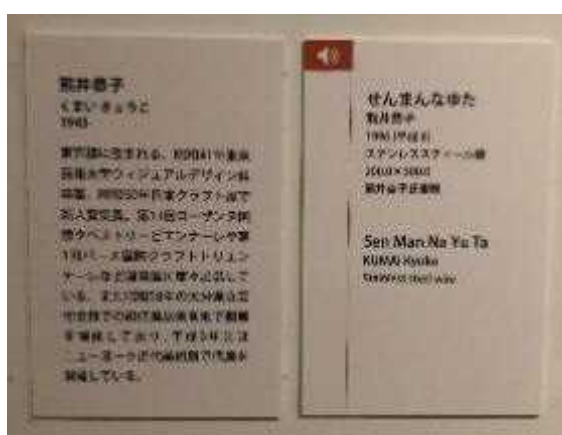
1. 文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）

- 主要作品に、作家略歴と簡易な解説を、必要に応じてキャプションで掲示するのみ。
- 作品の時代背景や地域との関わりなどを詳しく説明するパネルや音声ガイドはない。
- 作品の技法や作者に関する映像資料の放映はない。



2. 情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）

- 主要作品100点の解説音声ガイドがダウンロードできるが、簡易なもので、地域性や時代背景などのストーリー性には欠けている。
- 展示内容によっては1点程度しか音声ガイドとリンクしないコレクション展がある。



3. 外国人観光旅客の来訪の状況に応じた、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号）

- キャプションは、作品名に英語表記があるのみ
- 解説パネル等は、日本語表記のみ
- 主要作品に英語、中国語、韓国語音声ガイドあり（アプリダウンロード形式）
- 解説文のわかりやすさ（R2年度来場者アンケートより）
 - ・令和2年度 「満足」「とても満足」の割合（平均）
 - 「満足」29.4% 「とても満足」32%
 - 「満足」「とても満足」の合計割合（平均）61.4%（前年比+6.7%）



6-1-2. 本計画における取組

1. 文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）

(1) 事業内容1-①「竹」と「日本の美」をテーマとしたシリーズ展示（コレクション展・企画展対象）

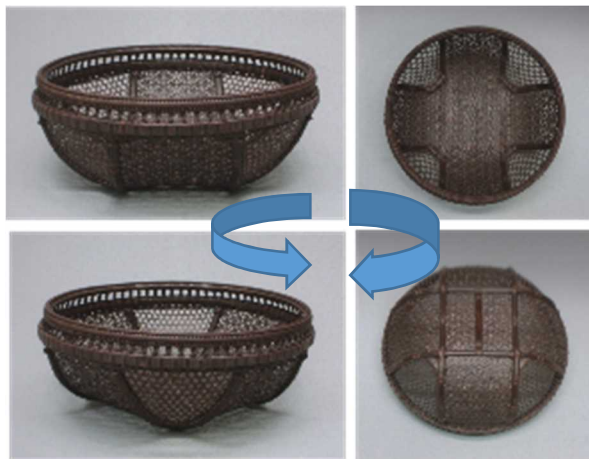
- OPAM主要コレクションの紹介にあたり、作品を併置するだけでなく、県内地域の自然や歴史とどのような繋がりがあり、なぜ発達したのかを鑑賞者が理解できるように、写真や図版も交えて、詳しく解説する（説明パネル掲示、パンフレット配布）。
- 主要作家の人生、技法などを伝えるためのインタビューを含む映像を会場内で放映する。
- 作品をより深く理解し、地域への興味・関心を高めるために、さまざまな竹見本や編組を紹介する実物資料、手に持って鑑賞できる作品なども展示する。
- 竹工芸の繊細で超絶な編みを実感してもらうため、高精細画像データを用いた作品のクローズアップパネルを作品とともに掲示する。
- 展示会場では、竹工芸作品の裏面も鑑賞できる特別な工芸台を用いて、その美しさを伝える
- 展示会場には、鑑賞者がクローズアップで竹工芸を鑑賞できるように単眼鏡を常備する。
- 大分県在住の現代竹工芸家の作品を展示し、作家による制作実演を公開し、その技術の高さを紹介する。
- 展示作品の魅力を紹介し、興味・関心をより高めるために、定期的に学芸員、ボランティアガイド、竹工芸家によるギャラリートークを行う。
- 県内の竹工芸体験施設、作家工房、販売店に関する情報を記載したパンフレットを展示会場で配布し、体験や購買行動の面から鑑賞者が竹工芸にアプローチできる方法も提供する。

2. 情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）

(1) 事業内容2-① デジタルミュージアム 「おおいた美の宝」（仮称）システム事業

- ① ホームページに「おおいた美の宝デジタルミュージアム（仮称）」を新設し、主要コレクションや主要作家に関するストーリー性を持った詳しい解説や、地域との繋がりを知ることができる環境を整備する。
 - 生野祥雲斎や竹工芸作品の360度・全方位画像を掲載し、スクロールで鑑賞できる。
 - 主要作品の高画質画像の掲載（このデータを展示解説パネルでも使用する）。
 - 主要文人画（南画）の漢詩部分の釈文を翻刻して表示し、その意味を解説する。
 - 巻物形式の作品はスクロールによって全幅が鑑賞できるようにする。
 - 画帳やスケッチブックは展示しているページ以外も、スクロールによるページ送りで鑑賞できる。
 - 主要作品の解説を多言語化、音声化する。
 - 主要作品を学芸員が解説した動画を掲載する。
 - OPAMの建築や館内外に設置している現代アート作品についても、本システムによる解説を利用できるようにする。
- ② ①の解説システムは、展示室内でも、スマートフォン等からQRコードでアクセスできる。
- ③ 上記システムは専用アプリを使用せず、クラウドからのダウンロードによって利用できるシステムであるため、インターネット回線（Wi-Fiシステム）がある場所であれば、どこからでもアクセスが可能であるため、大分空港などのサテライト作品展示の作品解説としても活用する。

●スクロールで全方向から竹工芸を鑑賞



●田能村竹田作品の例_高精細画像表示/翻刻文字表示



3. 外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介 (施行規則第1条第1項第3号)

- (1) 「竹」と「日本の美」をテーマとしたシリーズ展示にて、説明パネル・キャプション等の多言語化
○大分県への外国人来県者状況（韓国、台湾、香港が約 80%）をふまえ、英語 ⇒ 韓国語 ⇒ 中国語（繁体字）⇒ 中国語（簡体字）による表記を順次導入する。
- (2) 「おおいた美の宝デジタルミュージアム（仮称）」
「おおいた美の宝デジタルミュージアム（仮称）」では、コレクションの主要作品や主要作家に関するストーリー性を持った詳しい解説を、多言語（英語・韓国語・中国語（繁体字）・中国語（簡体字））で表示とする。また、コレクション展示にも反映する。
※このデータベースの作品解説を、2023年度以降にコレクション展での作品解説に活用する
- (3) QRコードによる解説システム
QRコードによる解説システムでは、英語 ⇒ 韓国語 ⇒ 中国語（繁体字）⇒ 中国語（簡体字）と順次整備し、作品紹介を充実する。
- (4) ギャラリートークで外国人が参加する場合、英語での対応を実施する。
体験プログラムや高付加価値ツアー等では、多言語対応できるスペシャルガイドの活用を想定しており、大分県国際政策課および「おおいた国際交流プラザ（大分県芸術文化スポーツ振興財団の組織内に属する）」に在籍する国際交流員（ネイティブスピーカー 英・中・韓）との連携により、人材育成を進める。
※多言語化は魅力的な多言語解説作成指針―地域観光資源の多言語解説整備支援事業（観光庁 令和2年3月版）に沿って実施する。

6-2. 施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者との連携

6-2-1. 現状の取組

- 文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築
- 文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析
- 文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立
- ※OPAMとツーリズムおおいたとの連携については、現状ではツーリズムおおいたホームページでの企画展の掲載、誘客商材での「おおいたアート」特集や大型の企画展開催に際し、展覧会情報を掲載するなどの広報連携を行っている。

6-2-2. 本計画における取組

(1) 文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築

①本拠点計画に基づく各事業や取組について、OPAM設置者である大分県と、指定管理者・公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団、公益社団法人ツーリズムおおいた、NPO法人BEPPU PROJECT、大分県旅館ホテル生活衛生同業組合の共同申請者が緊密に連携し、観光事業者との調整や連携においてはツーリズムおおいたが中心的役割を担い、下記の関係者と調整や情報共有を行いながら連携体制を構築する。

※大分県（企画振興部交通政策課、国際政策課、商工観光労働部観光政策局、先端技術挑戦課、新産業振興室）おおいた国際交流プラザ、NPO法人BEPPU PROJECT、大分県旅館ホテル生活衛生同業組合、別府市竹細工伝統産業会館、株式会社関屋リゾート、一般社団法人由布市まちづくり観光局、COMICO ART MUSEUM YUFUIN、株式会社大分航空ターミナル

②大分県では本拠点計画を含む県内全体の文化観光を推進するため、「おおいたカルチャーツーリズム・デザイン会議」を2021年3月に発足させた。県内の歴史・芸術文化と観光、産業を横断する新しいコンテンツ造成を進める。

（メンバー）副知事（顧問）、芸術文化スポーツ振興課（事務局）政策企画課、おおいた創生推進課、広報広聴課、交通政策課、先端技術挑戦課、観光誘致促進室、東部振興局、中部振興局、南部振興局、豊肥振興局、西部振興局、北部振興局、教育庁文化課（県立博物館所轄）、全日空大分支店、JTB大分支店、ツーリズムおおいた、BEPPU PROJECT

(2) 文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析

商工観光労働部観光局、（公社）ツーリズムおおいたと一緒にデータ共有・分析を行い、客観的な観光関連データの集約・分析を行う。特にOPAMおよび県内主要観光地との周遊状況（ルートや利用交通機関）の現状把握を行う。同時に、各種データの解析、WEB調査や観光客の動態調査、宿泊事業者等と連携したモニタリング調査等をより効果的な方法で実施し、別府、湯布院の宿泊者をOPAMに誘客するための分析を行い、各事業へと反映させる。

(3) 文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立

（公社）ツーリズムおおいたと連携し、同法人が委託するマーケティングアドバイザーの調査、分析内容を共有し、OPAM来館者、体験プログラム、ツアー参加者アンケート調査の結果、県内宿泊者データに基づいた分析情報を用い、各事業の実施効果を適切に評価し、事業内容の改善につなげる。

6-3. 施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者との連携

6-3-1. 現状の取組

○文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めた賑わいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施

・公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団が「iichiko 総合文化センター」やOPAMと隣接する地元商店街と一体となった音楽や芸術系イベントを「芸術文化ゾーン」の事業として、夏（七夕スターライトエキスプレス）、秋（アトリウム遊園地）冬（ハート・オブ・クリスマス）を2015年以来、継続して開催している。

6-3-2. 本計画における取組

文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めた賑わいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施

(1) 交通アクセスの充実

- ①別府・国東、湯布院地域からOPAMへの詳しいアクセス方法と地域の文化・観光施設等の情報を掲載した「OPAMアクセスマップ（仮称）」を作成し、アクセス情報の基盤強化に取り組む
- ②別府・国東、湯布院地域での大型イベントや芸術祭開催にあわせ、各地域とOPAMを循環する県内バス会社によるシャトルバスを運行する。
- ③JR九州「九州レールパス JR Kyushu Rail Pass」にOPAMの情報を掲載し、インバウンドへの情報提供を強化する。
- ④大分市の最大観光地「高崎山自然動物園」「大分マリンパレス水族館「うみたまご」」の入場料とバス料金をセットにした「モンキーマリンチケット」（大分交通）へのOPAM参加を、関係者と協議のうえ、検討・実施する。
- ④大分空港 ⇄ 大分市間にホーバークラフト運行再開に向けた交通アクセスの拡充を企図する。

(2) 別府、湯布院の宿泊施設と連携した周遊の促進

- ①開館以来の大型企画展（数万人規模の入場者あり）に際し、交通機関や宿泊施設と部分的に入場料割引などを行っているが、単発的で部分的なPRにとどまっていた。本計画では、OPAM周辺の宿泊施設、別府、湯布院の宿泊施設と連携し、OPAM企画展と地域の観光地に宿泊を組み合わせるなど、企画展との旅行商品造成を行い、OPAMと地域循環の促進を企図する。
- ②「現代アート」を切り口にした観光循環の促進
現代美術をテーマとして10年以上地域活性や人材育成事業を展開しているNPO法人BEPPEU PROJECTの活動との連携を深め、主な事業「ベップ・アートマンス（市民参加型の芸術祭）」「in BEPPEU（現代アーティスト個展）」と連動したイベントや展覧会をOPAMで開催することで、大分 ⇄ 別府 ⇄ 国東 ⇄ 大分空港という新しい循環を創り出し、県外・海外からの観光客の温泉 + αの選択肢を提供する。
- ③別府、湯布院の宿泊施設と連携したワークショップやマルシェの開催
別府市竹細工伝統産業会館が行う「竹（バンブー）マルシェ」（竹職人手作りの「青竹箸」と地元食材や食品販売イベント）や「ベップ・アートマンス」での竹工芸ワークショップをアレンジし、美術館、宿泊施設、主要交通機関でサテライトイベントとして連携開催することで、観光客を竹工芸や竹職人、地域へとつなぎ、周遊、リピートを促進する。

(3) 大分市への観光誘客促進

- 大分市とOPAMへの誘客のため、「まちめぐり建築ツアー（OPAM周辺）」や「ナイトミュージアム」など各種体験プログラム等を本計画内で取組み、OPAMが別府、湯布院から大分市への周遊を喚起するランドマークとなるように取組を行う。
- 大分市美術館との連携を強化するとともに、大分市の最大の観光地（高崎山自然公園、大分マリンパレス水族館・うみたまご）ともアクセス方法や広報で連携する取り組み強化を、ツーリズムおおいが窓口となって交渉、調整準備を検討・実施する。
- 大分市文化振興課、商工労働観光部観光課等とも連携、情報共有を積極的に行い、OPAMと大分市内への観光誘客強化にも取り組む。
- OPAM周辺地域の「まちめぐり建築ツアー（事業番号 1-④）」開催など、大分駅、商店街への回遊を結び付けた取り組みを行い、周辺地域のにぎわいづくりにも取り組む。

7. 文化観光拠点施設機能強化事業

7-1. 事業の内容

7-1-1. 文化資源の魅力の増進に関する事業

(事業番号 1-①)

事業名	「竹」と「日本の美」をテーマとしたコレクションシリーズ展示および企画展事業
事業内容	1. 「おおいた竹ものがたり（仮称）」シリーズ開催
	「OPAMコレクション」＝「竹工芸」というブランド化を図るため、2021年度より「竹」をテーマとした「おおいた竹ものがたり（仮称）」シリーズをコレクション展示室内に設け、さまざまな角度から「竹工芸」を紹介する。同時に、海外美術館が行うような、他の地域資源（文人画、日本画、陶芸）を組み合わせたコラボレーション展示を行い、「日本の自然、伝統美」を鑑賞、体験できる展示内容とする。 (1) 歴史や地域文化を反映した展示解説の充実 ○竹工芸とその背景にある別府の歴史や文化、芸術的風土なども含めた情報を、来場者にわかりやすく解説する。 ○作品理解を支援するパンフレットや解説シートを作成し、展示会場で配布する。 ○作品理解のために、必要に応じて竹工芸の技法や実物資料を紹介する。 ○ボランティア、出品作家によるギャラリートークや制作実演等を実施する。 ○竹工芸や出品作家を紹介する映像やインタビュー映像等を放映する。  ※メトロポリタン美術館アビーコレクション展での竹工芸展示風景 (2) 展示手法のブラッシュアップ ○作品をよりよく見せるため、多方面からの鑑賞が可能な展示備品を作成する。 ○竹工芸独特の陰影を良く見せ視覚効果を高めるため、照明デザイナーを活用する。 ○海外美術館での竹工芸展示を参考に、平面作品とのコラボレーションや高精細写真パネルによる編組の紹介、映像を併置した展示レイアウトを行う。 (3) 竹工芸専門学芸員の育成 ○2020年度に大分県が採用した学芸員（近世絵画専攻）を竹工芸専門の学芸員として育成するため、40年以上の知識、経験と国際的なノウハウ、人間関係をもつ友永尚子氏（竹工芸専門研究員、元大分県立芸術会館学芸課長）をアドバイザーに依頼する。 (4) 地域文化資源の調査事業の強化 ○大分の竹工芸に関する作品・資料、在住竹工芸作家の調査を強化し、その調査内容を展示に反映するとともに、コレクションを拡充するために寄贈、寄託を働きかける 2. 生野祥雲斎記念イヤー（令和6年）に大規模企画展を開催 生野祥雲斎生誕130周年・没後50年の記念イヤーとなる2024（令和6）年に大々的な企画展を開催する。当館収蔵品に加えて、国立工芸館、東京国立近代美術館等が所蔵

	する生野祥雲斎の代表的名品を借用し、県民に「里帰り」展示として紹介する。 (企画案) BEAUTY OF BAMBOO - 竹工芸の革新・生野祥雲斎名品展 (仮) ○生野祥雲斎の代表的名品を国公立美術館や個人コレクターから借用展示し、その変遷を紹介するとともに、その周辺の竹工芸家、後継者の作品を同時に展示し、日本の竹工芸の歴史と別府が果たした役割を国内外に伝える展覧会を開催する。 ○1. 「おおいた竹ものがたり (仮称)」シリーズでの解説の充実を継続することに加えて、茶道、華道と関連したイベント、竹クラフト商品の展示・販売、「竹マルシェ」の開催、竹工芸コレクターなどVIPを対象とした特別鑑賞会を開催するなど、R3年から本拠点計画で培ったノウハウと新たな人脈、連携体制を活かし、竹工芸のブランド強化と幅広いファン層の獲得を目指す。
実施主体	大分県芸術文化スポーツ振興財団 (大分県立美術館)
実施時期	1: 令和3年度～令和7年度 2: 令和6年度
継続見込	計画終了後も指定管理者の事業として継続する。 財源見込み: 指定管理費を充当
アウトプット目標	①令和3.4.5.7年: コレクション展「おおいた竹ものがたり (仮称)」シリーズ3期開催 ②令和6年: 上記シリーズ展1期、企画展1本開催
必要資金調達方法	35.06 百万円 (内訳: 11.69 百万円 (一般財源)) ①10.37 百万円 (文化庁・文化観光推進事業補助金) ②13.00 百万円 (文化庁・地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業補助金) ・国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する

(事業番号1-②)

事業名	大分県立美術館ボランティアガイド育成事業
事業内容	OPAMコレクションと建築空間の魅力を来場者に伝え、興味、関心をもってもらい、リピーターを増やすことを目的に、館内案内と作品解説を行うボランティアガイドを育成し、定期的に館内とコレクション展でのギャラリートourを開催する。 ※令和3年度から日本語ガイドを養成し、ギャラリートourを実施 令和4年度から竹工芸に特化した英語によるガイド養成を開始し、令和5年度から英語による竹工芸の解説ツアーも実施できることを目標とする。
実施主体	大分県芸術文化スポーツ振興財団 (大分県立美術館)
実施時期	令和3年度～令和7年度
継続見込	計画終了後も指定管理者の事業として継続する。財源見込み: 指定管理費を充当
アウトプット目標	○作品ボランティアガイド 10名程度登録/年 ○建築・現代アートを紹介する館内ツアー 4回程度/月 (R3年～R7年) ○コレクション展でのギャラリートourの開催 R3年2回程度 R4年以降月2回程度
必要資金調達方法	大分県立美術館指定管理費にて自己負担

(事業番号 1-③)

事業名	国東・別府地域との周遊性と観光循環向上のための展示・イベント事業
事業内容	例年開催される別府・国東地域の現代アートイベントや2022年大分空港の「宇宙港」開港（アジア初。大分県に海外の宇宙産業関係者が往来する）に向けて、OPAMとの周遊と観光循環を促進するため、国東・別府地域の大型イベントに関連した企画展やイベントを、時期をあわせて、OPAMで開催する。展覧会を行うだけでなく、講演会、作家によるトークイベント、ワークショップなどの関連イベントを充実させることで、国東・別府地域とOPAMとの周遊の向上を図る。 *本事業に連動して、事業番号1-⑥体験プログラムを造成し、観光循環を促進する取組を行う。 *本事業は、事業番号3-①「②別府・国東、湯布院地域での大型イベントや芸術祭開催にあわせ、各地域とOPAMを循環するシャトルバスを運行する」と連動する。
実施主体	大分県芸術文化スポーツ振興財団（大分県立美術館）
実施時期	令和3年度～令和7年度
継続見込	計画終了後も指定管理者の事業として継続する。財源見込み：指定管理費を充当
アウトプット目標	○令和3年度：「宇宙」や「宇宙工学最新技術」をテーマとした企画展 1本 ○令和4年～7年度：「宇宙」「科学」「現代アート」「建築」いずれかをテーマとした企画展またはイベント等 年1本程度
必要資金調達方法	58 百万円 （内訳：19.34 百万円（一般財源）、38.66 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金） ・国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する

(事業番号 1-④)

事業名	大分県立美術館の「建築空間」を活用した施設有効利用促進事業
事業内容	OPAMの「建築」と「現代アート」の魅力を伝えるとともに、建築空間そのものの鑑賞体験のブラッシュアップ、被写体としての利用促進、MICEの利用を促進するための事業を展開する。 (1)「OPAMナイトミュージアム」の開催 ①コレクション展示室での竹工芸作品鑑賞と建築ツアーに、地域の食を楽しむナイトイベントを大分県酒造組合等と連携して開催する。 ②閉館後の時間帯を活用した夜間限定イベント（例：OPAMアートお化け屋敷など）の開催を検討する。 *ナイトイベントは別府、湯布院の宿泊施設だけでなく、周辺ホテルとの連携を想定。特にOPAMと隣接する「ホテル日航大分 オアシスタワー」との連携は重点的に強化する。 (2)館内散策解説システム導入 ○「おおいた美の宝デジタルミュージアム（仮称）」（事業番号2-①）と連動し、坂茂、マルセル・ワンダース、須藤玲子、ミヤケマイ作品の解説をQRコードから簡単にアクセスし、作家情報などを得られるシステムを構築する。 ○解説文は多言語/日本語、英語、韓国語、中国語（繁体字・簡体字）による表示

	※適切な多言語化や広報活動を行うため、「おおいた国際交流プラザ（当財団内）」や大分県国際政策課の国際交流員によるネイティブチェックを行う。 ※魅力的な多言語解説作成指針―地域観光資源の多言語解説整備支援事業（観光庁令和2年3月版）に沿って実施する (3) 写真ワークショップや撮影会の開催 ○OPAMの被写体としての魅力を利用し、写真撮影のワークショップ（大分キャノン連携）や撮影会開催など、インスタ映えなどフォトジェニックな「写真撮影スポット」としての施設利用促進を図る。 (4) OPAMでのコンサートやトークイベント等の開催 ○1Fアトリウムや3Fホワイエ等を活用し、コレクション展や企画展と連動したコンサート等を開催する。 (5) 「まちなみ建築ツアー」の開催 ○館内の「建築ツアー」をブラッシュアップし、OPAM周辺の著名建築家による建築物を巡るガイドツアーを造成し、「まちなみ建築ツアー」を開催する。
実施主体	大分県、大分県芸術文化スポーツ振興財団（大分県立美術館）
実施時期	令和3年度～令和7年度
継続見込	計画終了後も連携し、指定管理者の事業として継続する。
アウトプット目標	(1) ナイトミュージアムイベント 2回程度/年（R4年度以降） (2) 建築・現代アート作品解説提供（R4年度以降） (3) 写真ワークショップ・撮影会 2回程度/年（R3年度以降） (4) コン서트、トークイベント等開催 3回程度/年（R3年度以降） (5) 「まちなみ建築ツアー」1本造成（R3年度基本ルート造成）
必要資金調達方法	2.6百万円 （内訳：0.87百万円（一般財源）、1.73百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）） ・国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する

（事業番号1－⑤）

事業名	おおいた観光エリア連携によるサテライト展示・イベント事業
事業内容	大分県観光の玄関施設、主要観光スポット、地域文化施設、宿泊施設等と連携し、OPAMコレクションや在住竹工芸作家作品のサテライト展示、イベントを開催し、別府、湯布院エリアとOPAMとの循環の促進を図る。 (1) 大分県立美術館コレクションのサテライト展示の実施 ○展示場所：大分空港およびCOMICO ART MUSEUM YUFUIN（通年、2～3か月展示替） 別府市竹細工伝統産業会館（自主企画展開催時にあわせて2か月程度） 「大分空港海上アクセス旅客ターミナル」乗降場（R5年度以降）など

	(2) 大分県立竹工芸訓練センター修了生や在住竹工芸家の展示会・実演イベント開催 ○展示場所：OPAM ○展示時期：毎年1回以上 (3) 「竹（バンブー）マルシェ」等イベントの開催 ○開催場所：OPAM、交通機関、別府、湯布院宿泊施設等 ○開催時期：年1回@OPAM（夏または秋）その他年1カ所程度（R4年以降） ○開催内容：在住竹工芸家作品展示・販売、「青竹箸」製作・販売、食品販売
実施主体	大分県、大分県芸術文化スポーツ振興財団（大分県立美術館）
実施時期	令和3年度～令和7年度
継続見込	計画終了後も連携し、指定管理者の事業として継続する。
アウトプット目標	○OPAMコレクション サテライト展示 ・大分空港：10点程度/年 ・別府市竹細工伝統産業会館：3点程度/年 ・COMICO ART MUSEUM YUFUIN：各回1～2点程度 3回程度展示替 5点程度/年 ・「大分空港海上アクセス旅客ターミナル」（R5年度以降）5点程度/年 ○竹工芸訓練センター修了生、在住竹工芸家の展示会・実演イベント開催 1回程度/年 ○竹（バンブー）マルシェ 1～2回程度/年（大分県立美術館・その他会場 各1）
必要資金 調達方法	8.24 百万円 （内訳：2.75 百万円（一般財源）、5.49 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）） ・国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する



（事業番号1－⑥）

事業名	宿泊施設と連携したアート体験プログラム造成事業
事業内容	「竹工芸」「建築」「現代アート」をテーマとしたアート体験プログラムの造成 ○県内観光地に宿泊する美術に関心の高い層ならびに連泊する長期滞在旅行者をターゲットに、地域文化資源にかかるアクティビティ（体験プログラム）を造成する。 ○コレクション展、企画展やイベント等と連動し、大分県独自の体験プログラムを造成することで、OPAMと別府・国東、由布院温泉観光エリアを周遊する仕組み作りを目指す。 ※体験プログラムでは、単純に作品を見る、制作するだけでなく、地域の土地や自然、地理的特徴を体験する内容を盛り込み、「地域の魅力」に気づいてもらう独自の新しいコンテンツを準備する。 【体験プログラム例】 ①竹工芸 OPAMでの「作品鑑賞」⇔ 別府市竹細工伝統産業会館での「竹工芸制作体験」⇔ 大分県在住竹工芸家の「工房訪問」（右図）⇔ 竹工芸「作品購入」⇔ 竹林散策 ➡別府・由布院温泉宿泊



②建築：

OPAM ⇨ 「由布市ツーリストインフォメーションセンター」(右上図) ⇨ 「由布院駅」⇨ 「COMICO ART MUSEUM YUFUIN」など著名建築家の設計した建築をガイド付きで巡るツアー
⇨ 湯布院散策
➡ 由布院温泉宿泊



③現代アート：

- ・OPAM ⇨ 国東現代アート巡り (右中図) ⇨ 別府温泉宿泊
- ・OPAM ⇨ COMICO ART MUSEUM YUFUIN ⇨ 湯布院散策 ⇨ 由布院温泉宿泊



【連携宿泊施設】

『GALLERIA MIDO BARU』(ガレリア御堂原・みどうばる(右下図))

株式会社 関屋リゾートグループ運営

※NPO 法人 BEPPU PROJECT が運営コンセプト、アートキュレーションを担当

- ・地域の文化に関心が高く、旅慣れた国内外の旅行者をターゲットに、別府の風土、歴史、温泉と現代アート作品を融合させ、ホテルそのものが現代アートのインスタレーション的な空間演出を行っている。あわせて、このホテルでしか体験できないカルチャーツーリズムのアクティビティ(体験プログラム)を提供する施設を目指し、「体験価値を高めるサイトスペシフィック(※1)なホテル」というコンセプトのもと運営されている。



※1：土地や場所の特性を生かして制作される芸術作品やプロジェクト

※本体験プログラムは『GALLERIA MIDO BARU』(ガレリア御堂原)を含む関屋グループが宿泊施設として本計画に連携協力し、その成果を大分県旅館ホテル生活衛生同業組合を通じて、県内宿泊施設に情報共有し、体験プログラムを取扱う宿泊施設を増加させる。

実施主体	大分県芸術文化スポーツ振興課、大分県芸術文化スポーツ振興財団(大分県立美術館)、ツーリズムおおいた、NPO 法人 BEPPU PROJECT、大分県旅館ホテル生活衛生同業組合
実施時期	令和3年度～令和7年度
継続見込	宿泊業者のアクティビティとして継続・定着を図る
アウトプット目標	○おおいたアート体験プログラム造成 竹工芸・建築・現代アート 各1種 ○おおいたアート体験プログラム提携宿泊業者 1件/年
必要資金 調達方法	27 百万円 (内訳：9 百万円(一般財源)、18 百万円(文化庁・文化観光推進事業補助金)) ・国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する

(事業番号 1-⑦)

事業名	おおいたアート体験プログラムスペシャルガイド育成事業	
事業内容	事業番号 1-⑥ アクティビティ (体験プログラム) 造成と同時に、この事業に同行して説明を行えるスペシャルガイドを育成する。 本ガイドは多言語による海外旅行者へのガイドも行い、本計画終了後は、この体験プログラムを企画、コーディネートして、民間業者として自走できる人材を育成する。	
実施主体	大分県芸術文化スポーツ振興課、大分県芸術文化スポーツ振興財団 (大分県立美術館)、ツーリズムおおいた、NPO 法人 BEPPU PROJECT、大分県旅館ホテル生活衛生同業組合	
実施時期	令和 3 年度～令和 7 年度	
継続見込	宿泊業者のアクティビティとして継続・定着を図る	
アウトプット目標	〇おおいたアート体験プログラムスペシャルガイド育成 1～2 名/年	
必要資金調達方法	5 百万円 (内訳：1.67 百万円 (一般財源)、3.33 百万円 (文化庁・文化観光推進事業補助金)) ・国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する	

(事業番号 1-⑧)

事業名	高付加価値の大分県立美術館コレクション特別鑑賞プログラムの造成	
事業内容	〇アートへの関心が高い湯布院の高級旅館 (由布院玉の湯、亀の井別荘、山荘無量塔) 宿泊者、ならびに近年、別府に相次いで建設されている高級ホテル (ANA インターコンチネンタル別府リゾート&スパ、星野リゾート 別府、AMANE resort GAHAMA、ガレリア御堂原など) の宿泊者や海外美術愛好家 (主としてコレクター) を対象とした、コレクション特別鑑賞体験プログラムの造成を行う。 ※「竹工芸」は欧米を中心としたインバウンドに評価、人気が高いため、本特別鑑賞プログラムは外国人対応も積極的に進めることを想定している。 ※参加者の希望内容にあわせて、ツーリズムおおいたや旅行社と相談しながら、鑑賞者層やターゲットにあわせた自由な見せ方を検討・実施する。 (例) 〇一時保管庫等に仮設の和室を設置し、有名屏風絵高精細レプリカ (キヤノン綴りプロジェクト制作) 長谷川等伯「龍虎図」(ボストン美術館所蔵) などを飾った展示空間を準備する。普段は展示期間が限られている O P A M 所蔵の田能村竹田「稻川周遊図」(重要文化財)、福田平八郎「竹」、生野祥雲斎「炎」、上村松園「月蝕の宵」等をケースなしで直接鑑賞し、学芸員が解説を行う。 〇作品鑑賞に加え、学芸員が掛け軸や屏風を収納箱から取り出し、飾り一連の取扱いを説明。参加者が、掛け軸や伝統工芸士が制作した工芸品に触れる体験プログラムも準備する。	

	○生野祥雲斎（人間国宝）工房「此君亭」（右図）にて、生野徳三氏（祥雲斎長男、竹工芸家）とともに茶道体験や作品鑑賞を組みあわせ、大分県の竹工芸をより理解し、さらに質の高い日本文化を体験する機会を提供する。 ＊「此君亭」：非公開・大分市白木 かつて多くの文化人のサロンの存在であり、優れた数寄屋造のサロン、茶室を有し、米国版家庭画報でも紹介された名邸宅。 ○プログラム内容の検討、調整、海外ギャラリーへの広報のため、米山佳子氏（ニューヨーク近代美術館（MoMA）で勤務後、日本美術や工芸品を欧米へ紹介するアートコンサルタント）などのインバウンド対応の専門家をアドバイザーとして、氏の経験、人脈をプログラム造成に反映する。	
実施主体	大分県芸術文化スポーツ振興課、大分県芸術文化スポーツ振興財団（大分県立美術館）、ツーリズムおおいた、大分県旅館ホテル生活衛生同業組合	
実施時期	令和3年度～令和7年度	
継続見込	宿泊業者のアクティビティとして継続・定着を図る	
アウトプット目標	○コレクション特別鑑賞プログラムの造成（基本バージョン1本）	
必要資金 調達方法	6.62 百万円（内訳：6.62 百万円（文化庁・高付加価値事業補助金） ・国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する	

（事業番号1－⑨）

事業名	大分県立美術館コレクションデータベース改修・拡充事業
事業内容	○所蔵品管理とホームページでの所蔵品検索を目的としたデータベースシステムを、デジタルミュージアム（事業番号2－①）と連動させ、解説の充実化を図るシステム改修を行う。 ○現在、日本語、英語のみである所蔵品データベースに韓国語、中国語（繁体字・簡体字）表示を加え、ホームページで公開する。 ※魅力的な多言語解説作成指針―地域観光資源の多言語解説整備支援事業（観光庁 令和2年3月版）に沿って実施する ○国や地方公共団体等により推進されているデータ連携基盤等と連携・共有ができるようシステム改修を検討する。
実施主体	大分県芸術文化スポーツ振興課／大分県芸術文化スポーツ振興財団（大分県立美術館）
実施時期	令和3年度～令和7年度
継続見込	計画終了後もコンテンツを追加し、指定管理者の事業として継続する
アウトプット目標	○R3年～R4年 データベース改修のためのヒアリング、システム内容検討 ○R5年 データベース新（改修）システム導入、テスト運用開始 ○R6年 データベースシステム、ホームページ、作品解説システム等との連携運用開始
必要資金 調達方法	12.2 百万円（内訳：4.06 百万円（一般財源）8.14 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金））・国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する

7-1-2. 情報通信技術を活用した展示、外国語による情報の提供その他の国内外からの観光旅客が文化についての理解を深めることに資する措置に関する事業

(事業番号2-①)

事業名 デジタルミュージアム 「おおいた美の宝」(仮称) システム事業

事業内容 デジタル手法を活用し、OPAMでの新しい鑑賞方法やより深い作品理解の解説を提供する。

(1) デジタルならではの鑑賞体験を提供 (スマートフォン利用)

①竹工芸作品を全方位から高精細画像で鑑賞できる(右上図)

*竹工芸作品は、見る方向によって形状が異なり、内部と外部で編組が異なる作品も多く、それが大きな魅力である。

特に上部や底部を見ることは展示室内では困難で、実際に持って鑑賞しか方法はない。このシステムはデジタル手法による全方位からの「竹工芸」の鑑賞方法を提供するもの。

*全方位からの鑑賞システムは、一般鑑賞者の興味・関心をひくだけでなく、竹工芸訓練者の研究資料としても非常に有効で、竹工芸作家の技術力向上にも貢献するもの。

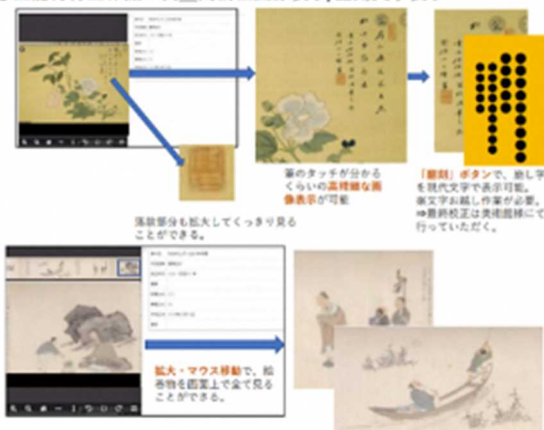
*サテライト展示でもこのシステムを利用することができる。



②主要作品を高精細画像によって鑑賞→作品の細部やディテールをじっくり鑑賞 (右下図)

③文人画の釈文など文字情報を翻刻デジタル化→「くずし字」と「現代漢字」が同時に読める (イメージ図)

●田能村竹田作品の例_高精細画像表示/翻刻文字表示



④冊子や絵巻をスクロールし、展示では見られない頁や部分を見ることができる。

⑤主要作家や主要作家説明にかかる映像・動画を作品とともに見て、聞くことが可能。

(2) 多言語化による展示解説

・日本語、英語、韓国語、中国語(繁体字・簡体字)による表示とする。

※魅力的な多言語解説作成指針—地域観光資源の多言語解説整備支援事業(観光庁(令和2年3月版))に沿って実施

(3) 作家・作品解説の音声化

【本展示システムのねらい】

○360度全方位から竹工芸鑑賞体験は世界初 →作品鑑賞の満足度を高める

○展示を見るだけでは理解できない旧字・崩し文字などを現代文字で読めるため、作品理解や満足度、興味・関心を高めることができる。

○展示ケース内でめくることができない冊子状の作品を、スマートフォン画面上でめくって、展示されていない全ページを見ることができるため、作品理解がより深まる。

	→上記 3 点はデジタル手法でしか体験できない新しい鑑賞方法で、デジタルツールを利用して、作品だけでなく美術鑑賞体験そのものへの興味・関心高めることができる。 ○詳しい作品解説をインターネットでも知ること、利用者の作品を実際に見てみたい、関係地域に行ってみてみたいという気持ちを高め、美術館から地域への誘客を促進する。
実施主体	大分県芸術文化スポーツ振興課／大分県芸術文化スポーツ振興財団（大分県立美術館）
実施時期	令和3年度～令和7年度
継続見込	計画終了後もコンテンツを追加し、指定管理者の事業として継続する
アウトプット目標	○R3 年～R4 年作品解説システム開発 ○R3：竹工芸全方位画像テスト運用開始 ○R4～ 各コンテンツを追加し、順次公開、運用 5 年間 200 主要作品を掲載予定
必要資金 調達方法	55.45 百万円 （内訳：18.49 百万円（一般財源）、36.96 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）） ・国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する

（事業番号 2－②）

事業名	インバウンドを対象とした地域文化資源（竹工芸、建築、屋内外設置現代アート作品）についての理解促進事業
事業内容	(1) コレクション展シリーズ展示「おおいた竹ものがたり(仮称)」でのあいさつ文、主要解説パネル、配布パンフレットを多言語で表示(事業内容 1－①連動) ・竹工芸の歴史、技法、特徴等の理解や展覧会鑑賞の満足度向上を企図する。 ・言語は日・英対応から、海外旅行者の状況を鑑みながら、多言語化（日本語、英語、韓国語、中国語（繁体字・簡体字）による表示へと拡充していく。 ※解説文は日本語の翻訳ではなく、ネイティブによる書下ろしを行う。 ※観光庁の「魅力的な多言語の解説作成指針」のとおり実施する。 (2) デジタル手法や多言語化による海外鑑賞者への対応の拡充（事業内容 2－①連動） ○「おおいた美の宝デジタルミュージアム」と連動し、コレクション展や企画展で主要作品のキャプションにQRコードを掲載。展示作品の詳細な説明、高精細画像、全方位画像等を鑑賞者が自分のスマホで観ることができるシステムを導入する。 ○詳細な解説（「おおいた美の宝」システムとリンク）や作家解説等を多言語で読むことができるシステムを導入する。 ※解説文は日本語の翻訳ではなく、ネイティブによる書下ろしを行う。 ※適切な多言語化や広報活動を行うため、「おおいた国際交流プラザ（当財団内）」や大分県国際政策課の国際交流員によるネイティブチェックを行う。 ※魅力的な多言語解説作成指針―地域観光資源の多言語解説整備支援事業（観光庁 令和2年3月版）に沿って実施する (3) 英語によるツアーガイド ○海外旅行者がギャラリーツアー、体験プログラム、コレクション特別鑑賞プログラムを利用する際は、学芸員によるツアーガイドは英語による解説を行う。

	※魅力的な多言語解説作成指針―地域観光資源の多言語解説整備支援事業（観光庁令和2年3月版）に沿って実施する。
実施主体	大分県芸術文化スポーツ振興課／大分県芸術文化スポーツ振興財団（大分県立美術館）
実施時期	令和3年度～令和7年度
継続見込	計画終了後もコンテンツを追加し、指定管理者の事業として継続する
アウトプット目標	キャプション、作品解説等の多言語（日本語、英語、韓国語、中国語（繁体字・簡体字））での提供
必要資金調達方法	（1）事業内容1－①内 多言語化費用（2.5百万円） （2）事業内容2－①内 多言語化費用（5.33百万円） （3）県立美術館学芸員によるツアーガイドは費用発生なし。 ・国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する

（事業番号2－③）

事業名	コレクション展および企画展理解・満足度向上事業
事業内容	OPAMでのコレクション展やシリーズ展示「おおいた竹ものがたり（仮称）」、各種企画展鑑賞に際し、その理解や満足度を向上するため、地域の自然や歴史をふまえたわかりやすい解説・紹介を行う。 (1) 学芸員によるギャラリートーク ○コレクション展、企画展来場者に対し、学芸員が定期的に複数回のギャラリートークを実施する。20人規模を原則として、20人以上参加の場合は、グループにわけて複数の学芸員が対応する。 ○団体旅行や社会見学、修学旅行等は事前予約によりギャラリートークの対応を行う ○必要に応じて、英語でのギャラリートークに対応する。 ※魅力的な多言語解説作成指針―地域観光資源の多言語解説整備支援事業（観光庁令和2年3月版）に沿って実施する (2) 出品作家等によるギャラリートークの実施 ○コレクション展、企画展来場者に対し、展覧会出品作家や関係者によるギャラリートークを開催する。（事業内容1－①、1－③連動）
実施主体	大分県芸術文化スポーツ振興財団（大分県立美術館）
実施時期	令和3年度～令和7年度
継続見込	計画終了後も指定管理業務として継続
アウトプット目標	(1) 学芸員によるギャラリートーク 5回以上/年 (2) 出品作家等によるギャラリートーク 3回以上/年
必要資金調達方法	(1) 県立美術館学芸員によるギャラリートークは費用発生なし。 (2) 事業内容1－①および1－③内予算で対応する。 ・国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

7-1-3. 国内外からの観光旅客の移動の利便の増進その他の文化資源保存活用施設の利用に係る文化観光に関する利便の増進に関する事業

(事業番号 3-①)

事業名	大分県アトスポット循環および利用アクセスの向上事業
事業内容	OPAMと別府・国東、湯布院観光エリアの来訪者が、双方の文化施設、建築物、アトスポットを利用するための方法、案内等を拡充し、その利便性の向上を行う。 (1) 別府・国東、湯布院地域からOPAMへの詳しいアクセス、地域の文化・観光施設等の情報を掲載し、公共交通機関による「OPAMアクセスマップ（仮称）」を作成し、大分空港、主要駅、主要バスセンター、観光案内所等に設置する。 *日本語、英語、韓国語、中国語（繁体字・簡体字）を順次作成する ※魅力的な多言語解説作成指針—地域観光資源の多言語解説整備支援事業（観光庁令和2年3月版）に沿って実施する。 (2) 別府・国東、湯布院地域での大型イベントや芸術祭開催にあわせ、各地域とOPAMを循環するシャトルバスを運行する。 (3) JR九州「九州レールパス JR Kyushu Rail Pass」にOPAMの情報掲載を行う。 (4) 大分市の最大観光地「高崎山自然動物園」「大分マリーナパレス水族館「うみたまご」」の入場料とバス料金をセットにした「モンキーマリンチケット」（大分交通）へのOPAM参加を、関係者と協議のうえ、内容検討・実施する。 (5) 観光タクシーパンフレットへのOPAM情報の掲載を行う。 (6) 大分中心市街地循環バス「大分キャンバス」利用での割引適用と広報連携を行う。 (7) 「大分空港海上アクセス旅客ターミナル」（R5年以降）との広報連携を行う
実施主体	大分県（芸術文化スポーツ振興課）／大分県芸術文化スポーツ振興財団
実施時期	令和3年度～令和7年度
継続見込	計画実施中に構築された連携体制による継続・定着を図る
アウトプット目標	(1) アクセスマップ R3 日本語、R4 英語、R5 韓国語、中国語（R6 繁体字・R7 簡体字） (2) シャトルバス運行 1回/年 (3) 大分県立情報掲載 R3年原稿作成、掲載内容検討・交渉 R4年から掲載開始 (4) 大分交通による共通割引バスセット券販売検討・造成 (5) 観光タクシーパンフレットにOPAM情報掲載 (6) コレクション展入場料割引を実施
必要資金 調達方法	19.97 百万円 （内訳：6.66 百万円：一般財源、13.31 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）） ・国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号 3-②)

事業名	大分県立美術館施設案内表示改善、デジタル化、多言語化促進事業
事業内容	国内外からの来館者が、OPAM内の施設配置、導線等を物理的にストレスなく理解、利用できるように、施設内の案内表示を改善する。 (1) 館内にフロアマップ、案内表示パネルを設置する。 (2) 館内各階（1． 2． 3階）でデジタルサイネージによる施設利用案内を設置する。 (3) 施設利用案内①②は多言語（英語、韓国語、中国語（繁体字・簡体字）表示とする。 ※適切な多言語化や広報活動を行うため、大分県国際政策課や「おおいた国際交流プラザ（当財団内）」の国際交流員によるネイティブチェックを行う。 ※魅力的な多言語解説作成指針―地域観光資源の多言語解説整備支援事業（観光庁 令和2年3月版）に沿って実施する (4) 国内外からの利用者の来館、観覧の利便性を向上するため、館内に無料Wi-Fi システムを設置し、館内全域でインターネットにアクセス可能とする。 (5) 国内外からの利用者サービスとして、キャッシュレス決済の拡充を検討する。 ※R2年度現在導入しているキャッシュレス決済 （会計）クレジットカード決済、AirPay（クレジットカード、交通系・iD などの電子マネー、QR コード の各決済） （電子チケット販売） asoview、JTBPassMe、楽天チケット、トリップアドバイザー ※R3年度以降は、インバウンド対応に効果的なキャッシュレスシステムを調査し、導入を検討する。
実施主体	大分県（芸術文化スポーツ振興課）／大分県芸術文化スポーツ振興財団（大分県立美術館）
実施時期	令和3年度～令和7年度
継続見込	計画終了後も指定管理業務として継続運用
アウトプット目標	○各階ごとにフロアマップ（多言語表示）設置（R3～） ○移動式の館内案内表示パネル（多言語表示）設置（R3～） ○館内無料Wi-Fi システム設置（R3～） ○各階デジタルサイネージ施設利用案内（多言語化）設置（R4～） ○新たなキャッシュレスシステム導入
必要資金調達方法	8.77 百万円 （内訳：2.93 百万円：一般財源、5.84 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金） ・国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

7-1-4. 文化資源に関する工芸品、食品その他の物品の販売又は提供に関する事業

(事業番号 4-①)

事業名	おおいた文化観光循環にかかる旅行商品の造成
事業内容	OPAMコレクション展、各企画展、イベント、体験プログラムなどを旅行業関係機関に紹介し、その利用を促すための取組を行う。 (1) 「てっぱんおおいた」など大分県およびツーリズムおおいたが発行する旅行パンフレット等に展覧会やイベント、体験プログラムを掲載し、観光循環の促進を図る。 (2) OPAMで開催する大型企画展鑑賞と関係する地域を周遊する宿泊プランを造成し、OPAMの集客力のある展覧会と地域との循環を促進する。 ※企画展旅行商品の造成では、その内容にあわせて、ツーリズムおおいたや旅行社と相談しながら、鑑賞者層やターゲットにあわせた自由な見せ方を検討・実施する。 (3) 旅行エージェントを対象とした体験プログラムを紹介する招請ツアーを開催する。 (4) インフルエンサーによる体験プログラムのWEB ツアー開催 美術工芸や芸術文化のインフルエンサー（例：国立工芸館名誉館長 中田英寿氏など）によるWEB ツアーを開催し、OPAMの竹工芸と別府地域との関係にスポットをあて、国内随一のブランド化を図る。
実施主体	大分県芸術文化スポーツ振興課／大分県芸術文化スポーツ振興財団／ツーリズムおおいた大分県旅館ホテル生活衛生同業組合
実施時期	令和3年度～令和7年度
継続見込	計画実施中に構築された連携体制による継続・定着を図る
アウトプット目標	(1) 旅行パンフレット掲載「てっぱんおおいた」各期掲載 (2) 企画展ツアー造成 1本/年 (3) 旅行社招請ツアー 1本/年 (4) WEB ツアー 1本以上/年
必要資金 調達方法	17 百万円 (内訳：5.67 百万円（一般財源）11.33 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金） ・国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号 4-②)

事業名	おおいた文化資源活用商品販売促進事業
事業内容	○既存の販売商品に加え、ミュージアムショップで来館者の満足度向上に向けた大分県に関わる商品等の販売（企画立案を含む）を民間業者との協働で行う。 ○地域文化資源展示に係る大分県在住作家の作品や商品を販売する。 (例)「おおいた竹ものがたり」と連動し、大分県内の竹工芸家が制作した竹かご、竹バック、オブジェ、デザイン性の高いアクセサリなどをミュージアムショップで限定販売する。(若い女性が好むラインナップ)
実施主体	大分県、大分県芸術文化スポーツ振興財団（大分県立美術館）、NPO 法人 BEPPU PROJECT
実施時期	令和3年度～令和7年度
継続見込	民間業者による継続見込

アウトプット目標	OPAM コレクションおよび地域文化資源をモチーフとした商品開発 1～2 商品程度/年
必要資金 調達方法	10 百万円 (内訳：3.34 百万円（一般財源）、6.67 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）) ・国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号 4－③)

事業名	大分県の食材を使用したカフェメニュー提供事業
事業内容	〇〇PAM2F「カフェ・シャリテ」で大分県の食材を用いた定番メニューを提供するとともに、企画展ごとに関連するメニューを提供し、来館者の満足度を図る。 ※本事業は2015年開館当時より実施しており、R3年度以降も継続実施する。 (定番メニュー) 豊後牛100% シャリテ・ハンバーグステーキなど 定食15種 かぼすジュースなど ドリンク6種 「やせうま」(デザート) いいちこ(焼酎) など5種 (企画展関連メニュー例) 「ムーミン展」スモークサーモンのサンドイッチ、 『クレミア』シナモンロールなど
実施主体	大分県芸術文化スポーツ振興財団(大分県立美術館)
実施時期	令和3年度～令和7年度
継続見込	計画終了後も指定管理業務として実施
アウトプット目標	定番メニュー(20種)継続提供 企画展ごとに1メニュー程度を提供
必要資金 調達方法	自己負担なし

7－1－5. 国内外における文化資源保存活用施設の宣伝に関する事業

(事業番号 5－①)

事業名	大分県立美術館ホームページ多言語化事業
事業内容	国内外における来館前の情報手段となるよう、OPAMホームページ記載内容の多言語化(英語、韓国語、中国語(繁体字・簡体字))を拡充する。 ・R2年度現在は、館利用概要は日英中韓対応、企画展内容は日・英 ・R4年度以降、企画展内容にも韓国語、中国語(繁体字・簡体字)を順次追加する。 ※適切な多言語化や広報活動を行うため、大分県国際政策課や「おおいた国際交流プラザ(当財団内)」やの国際交流員によるネイティブチェックを行う。 ※魅力的な多言語解説作成指針―地域観光資源の多言語解説整備支援事業(観光庁 令和2年3月版)に沿って実施する
実施主体	大分県芸術文化スポーツ振興財団(大分県立美術館)
実施時期	令和3年度～令和7年度
継続見込	計画終了後も指定管理業務として継続運用

アウトプット目標	○R3年度：企画展概要 日・英 表示、 ○R4年度：企画展概要 日・英・韓 表示 ○R5年度：企画展概要 日・英・韓・中（繁体字）表示、 ○R6・7年度：企画展概要 日・英・韓・中国語（繁体字・簡体字）
必要資金調達方法	1.3 百万円 （内訳：0.44 百万円（一般財源）、0.86 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）） ・国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号5-②)

事業名	大分県芸術文化情報総合ポータルサイト事業
事業内容	現在、県内各地域の芸術文化を紹介するホームページ等が複数存在しているため、一元的に情報発信できるポータルサイトを新たに立ち上げ、県内文化施設、文化イベント、カルチャーツーリズム情報をまとめて発信することで、大分県への訪問動機を高め、滞在日数増加を促進する。 ・連携組織：大分県博物館協議会、ツーリズムおおいた、大分県旅館ホテル生活衛生同業組合、NPO 法人 BEPPU PROJECT 《掲載内容》 ①既存のカルチャーツーリズム関連LPを統括 ②新規コンテンツ掲載（県内文化施設およびスポット情報・ツアー情報等） ③体験プログラムの掲載 ④SNSによるデジタルプロモーション ⑤上記は日英による多言語表示を行い、韓国語、中国語（繁体字・簡体字）へと拡充 ※適切な多言語化や広報活動を行うため、「おおいた国際交流プラザ（当財団内）」や大分県国際政策課の国際交流員によるネイティブチェックを行う。 ※魅力的な多言語解説作成指針―地域観光資源の多言語解説整備支援事業（観光庁 令和2年3月版）に沿って実施する。 ※ウェブサイト作成にあたってはJNTOの「外国人旅行者を魅了するウェブサイトの作り方」を参照し実施する。 ※解説文は日本語の翻訳ではなく、ネイティブによる書下ろしを行う。
実施主体	大分県（芸術文化スポーツ振興課）
実施時期	令和3年度～令和7年度
継続見込	拠点計画終了後も、継続運用する。財源見込：県一般財源
アウトプット目標	R3年度：本ポータルサイト立上げ R3～7年度：新規コンテンツ掲載（県内文化施設およびスポット情報・ツアー情報等）、体験プログラムツアーに関する情報掲載、SNSによるデジタルプロモーション実施
必要資金調達方法	25 百万円 （内訳：8.34 百万円（一般財源）、16.66 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）） ・国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号 5-③)

事業名	大分県内文化施設および宿泊業、大学等との連携による誘客広報事業
事業内容	県内交通要所や主要観光スポット等と連携し、竹工芸をテーマとしたサテライト展示やイベントを開催し、別府、湯布院エリアとOPAMの循環を促進する。 文化観光事業の情報発信を行い、各施設の来館者や旅行者の誘客と循環の促進を図る。 (1) 大分県内交通要所・文化施設および宿泊業との連携 ①大分空港 ・OPAMのキービジュアルを電光掲示板に掲載 ・OPAM、地域文化観光にかかるパンフレット、アクセスマップ等を設置 ②別府市竹細工伝統産業会館 ・OPAMと広報連携、入場料の相互割引、ショップでのサービス等を行う。 ・別府・国東、湯布院地域文化観光にかかるパンフレット、アクセスマップ等を設置 ③由布市ツーリストインフォメーションセンター ・OPAMの建築写真パネル、映像、パンフレット、アクセスマップ等を設置 ④COMICO ART MUSEUM YUFUIN ・OPAMの建築写真パネル、映像、パンフレット、アクセスマップ等を設置 ・OPAMとCOMICO ART MUSEUM YUFUIN 間の広報連携、入場料相互割引などを行う ※以上の施設に加え、「由布院駅アートホール」や「in BEPPU」でのOPAM紹介展示「大分空港海上アクセス旅客ターミナル」でのOPAM、地域文化観光にかかるパンフレット、アクセスマップ等を設置など、連携施設や連携イベントを増やす取組みを行う。 (2) 「おおいたカルチャーツーリズム」のリアル・ポータルサイト機能設置 ①OPAMインフォメーションに「おおいたカルチャーツーリズム」のリアル・ポータルサイトの役割を付加し、スタッフが県内文化施設や観光情報、来館者への情報提供を行う場所とする。 ② ①～④施設の紹介（映像含む）、それぞれへのアクセス、イベント、本拠点計画で造成した体験プログラムの紹介するコーナーをインフォメーションに設置する。 (3) APU（別府市・立命館アジア太平洋大学）との連携 ○観光分野専攻の学生等が、OPAMの「おおいた竹ものがたり」シリーズ展示や各種企画展の内覧会に参加する。その感想を母国語でSNSを用いて国外に情報発信を行う。
実施主体	大分県（芸術文化スポーツ振興課）、大分県立美術館、ツーリズムおおいた
実施時期	令和3年度～令和7年度
継続見込	拠点計画終了後も、継続運用する 財源見込：大分県立美術館指定管理費
アウトプット目標	(1) 各所に施設写真、映像、パンフレット、ポスター、チラシ等設置・共通割引券 (2) パンフレット、ポスター、チラシ等 (3) 学生15名程度/年参加

7-1-6. 7-1-1 ~ 7-1-5 の事業に必要な施設又は設備の整備に関する事業	
(事業番号 6-①)	
事業名	大分県立美術館施設利用の利便性向上事業
事業内容	事業内容 1-④、1-⑨での作品解説QRコード読み取り対応、 ○事業内容 3-②での全館でのインターネット接続対応、キャッシュレス対応のため、館内に無料 Wi-Fi 機能システムを設置する
実施主体	大分県芸術文化スポーツ振興課／大分県芸術文化スポーツ振興財団（大分県立美術館）
実施時期	令和3年度
継続見込	あり 財源見込：指定管理費
アウトプット目標	全館対応する無料 Wi-Fi 機能システムを設置
必要資金調達方法	2.2 百万円 ・内訳：0.74 百万円（大分県一般財源）1.46 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金） ・国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

7-2. 特別の措置に関する事項	
7-2-1. 必要とする特例措置の内容	
事業番号・事業名	
必要とする特例の根拠	文化観光推進法第 条（ 法の特例）
特例措置を受けようとする主体	
特例措置を受けようとする事業内容	
当該事業実施による文化観光推進に対する効果	

7-3. 必要な資金の額及び調達方法

	総事業費	事業番号	所要資金額	内訳
令和3年度	53.25 百万円	事業番号1-①	7 百万円	2.4 百万円（入館料） 4.6 百万円（1.54 百万円：一般財源、3 百万円：文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号1-③	6 百万円	2 百万円（一般財源） 4 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号1-④	0.52 百万円	0.17 百万円（一般財源） 0.35 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号1-⑤	0.99 百万円	0.33 百万円（一般財源） 0.66 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号1-⑥	4 百万円	1.34 百万円（一般財源） 2.66 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号1-⑦	1 百万円	0.34 百万円（一般財源） 0.67 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号1-⑧	0.62 百万円	0.62 百万円（文化庁・高付加価値事業補助金）
		事業番号2-①	15.71 百万円	5.24 百万円（一般財源） 10.47 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号3-①	3.97 百万円	1.32 百万円（一般財源） 2.65 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号3-②	0.77 百万円	0.26 百万円（一般財源） 0.51 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号4-①	3.22 百万円	1.08 百万円（一般財源） 2.14 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）

		事業番号4－②	2 百万円	0.66 百万円（一般財源） 1.33 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号5－②	5 百万円	1.67 百万円（一般財源） 3.33 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号5－③	0.3 百万円	0.1 百万円（一般財源） 0.2 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号6－①	2.15 百万円	0.72 百万円（一般財源） 1.43 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
令和4年度	60.69 百万円	事業番号1－①	7 百万円	2.4 百万円（入館料） 4.6 百万円（1.54 百万円：一般財源、3 百万円：文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号1－③	6 百万円	2 百万円（一般財源） 4 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号1－④	0.52 百万円	0.17 百万円（一般財源） 0.35 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号1－⑤	1.5 百万円	0.5 百万円（一般財源） 1 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号1－⑥	5.5 百万円	1.84 百万円（一般財源） 3.66 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号1－⑦	1 百万円	0.34 百万円（一般財源） 0.67 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号1－⑧	1.5 百万円	1.5 百万円（文化庁・高付加価値事業補助金）
		事業番号1－⑨	1 百万円	0.34 百万円（一般財源） 0.67 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号2－①	13.67 百万円	4.56 百万円（一般財源） 9.11 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）

		事業番号3－①	4 百万円	1. 34 百万円（一般財源） 2. 66 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号3－②	8 百万円	2. 66 百万円（一般財源） 5. 34 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号4－①	3. 5 百万円	1. 17 百万円（一般財源） 2. 33 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号4－②	2 百万円	0. 66 百万円（一般財源） 1. 33 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号5－①	0. 2 百万円	0. 07 百万円（一般財源） 0. 13 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号5－②	5 百万円	1. 67 百万円（一般財源） 3. 33 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号5－③	0. 3 百万円	0. 1 百万円（一般財源） 0. 2 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
	令和5年度	事業番号1－①	7 百万円	2. 4 百万円（入館料） 4. 6 百万円（1. 54 百万円：一般財源、3 百万円：文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号1－③	6 百万円	2 百万円（一般財源） 4 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号1－④	0. 52 百万円	0. 17 百万円（一般財源） 0. 35 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号1－⑤	1. 75 百万円	0. 59 百万円（一般財源） 1. 16 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号1－⑥	5. 5 百万円	1. 84 百万円（一般財源） 3. 66 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号1－⑦	1 百万円	0. 34 百万円（一般財源） 0. 66 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号1－⑧	1. 5 百万円	1. 5 百万円（文化庁・高付加価値事業補助金）

		事業番号1－⑨	10 百万円	3.34 百万円（一般財源） 6.66 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号2－①	8.7 百万円	2.9 百万円（一般財源） 5.8 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号3－①	4 百万円	1.34 百万円（一般財源） 2.66 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号4－①	3.5 百万円	1.17 百万円（一般財源） 2.33 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号4－②	2 百万円	0.66 百万円（一般財源） 1.34 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号5－①	0.3 百万円	0.1 百万円（一般財源） 0.2 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号5－②	5 百万円	1.67 百万円（一般財源） 3.33 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号5－③	0.3 百万円	0.1 百万円（一般財源） 0.2 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
令和6年度	64.02 百万円	事業番号1－①	22.5 百万円	7.5 百万円（入館料） 5 百万円（一般財源） 3.1 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金） 6.9 百万円（文化庁・地域ゆかりの文化資産活用した展覧会支援事業補助金）
		事業番号1－③	6 百万円	2 百万円（一般財源） 4 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号1－④	0.52 百万円	0.17 百万円（一般財源） 0.35 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号1－⑤	2 百万円	0.67 百万円（一般財源） 1.33 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号1－⑥	6 百万円	2 百万円（一般財源）

				4 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号 1－⑦	1 百万円	0.34 百万円（一般財源） 0.66 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号 1－⑧	1.5 百万円	1.5 百万円（文化庁・高付加価値事業補助金）
		事業番号 1－⑨	0.6 百万円	0.2 百万円（一般財源） 0.4 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号 2－①	8.7 百万円	2.9 百万円（一般財源） 5.8 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号 3－①	4 百万円	1.34 百万円（一般財源） 2.66 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号 4－①	3.5 百万円	1.17 百万円（一般財源） 2.33 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号 4－②	2 百万円	0.67 百万円（一般財源） 1.33 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号 5－①	0.4 百万円	0.14 百万円（一般財源） 0.26 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号 5－②	5 百万円	1.67 百万円（一般財源） 3.33 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号 5－③	0.3 百万円	0.1 百万円（一般財源） 0.2 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
令和 7 年度	48.52 百万円	事業番号 1－①	7 百万円	2.4 百万円（入館料） 4.6 百万円（1.54 百万円：一般財源、3 百万円：文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号 1－③	6 百万円	2 百万円（一般財源） 4 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）
		事業番号 1－④	0.52 百万円	0.17 百万円（一般財源）

				0.35 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）	
		事業番号 1－⑤	2 百万円	0.67 百万円（一般財源） 1.33 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）	
		事業番号 1－⑥	6 百万円	2 百万円（一般財源） 4 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）	
		事業番号 1－⑦	1 百万円	0.34 百万円（一般財源） 0.66 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）	
		事業番号 1－⑧	1.5 百万円	1.5 百万円（文化庁・高付加価値事業補助金）	
		事業番号 1－⑨	0.6 百万円	0.2 百万円（一般財源） 0.4 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）	
		事業番号 2－①	8.7 百万円	2.9 百万円（一般財源） 5.8 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）	
		事業番号 3－①	4 百万円	1.34 百万円（一般財源） 2.66 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）	
		事業番号 4－①	3.5 百万円	1.17 百万円（一般財源） 2.33 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）	
		事業番号 4－②	2 百万円	0.67 百万円（一般財源） 1.33 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）	
		事業番号 5－①	0.4 百万円	0.14 百万円（一般財源） 0.26 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）	
		事業番号 5－②	5 百万円	1.67 百万円（一般財源） 3.33 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）	
		事業番号 5－③	0.3 百万円	0.1 百万円（一般財源） 0.2 百万円（文化庁・文化観光推進事業補助金）	
合計	283.55 百万円				

8. 計画期間

令和3年度：計画一部検討、事業本格着手

令和4年度：計画事業実施、ブラッシュアップ

令和5年度：計画事業実施、ブラッシュアップ、中間評価

令和6年度：計画事業実施、中間評価を反映したブラッシュアップ

令和7年度：事業実施最終年、計画事業実施、最終評価、令和8年度以降の継続体制確立